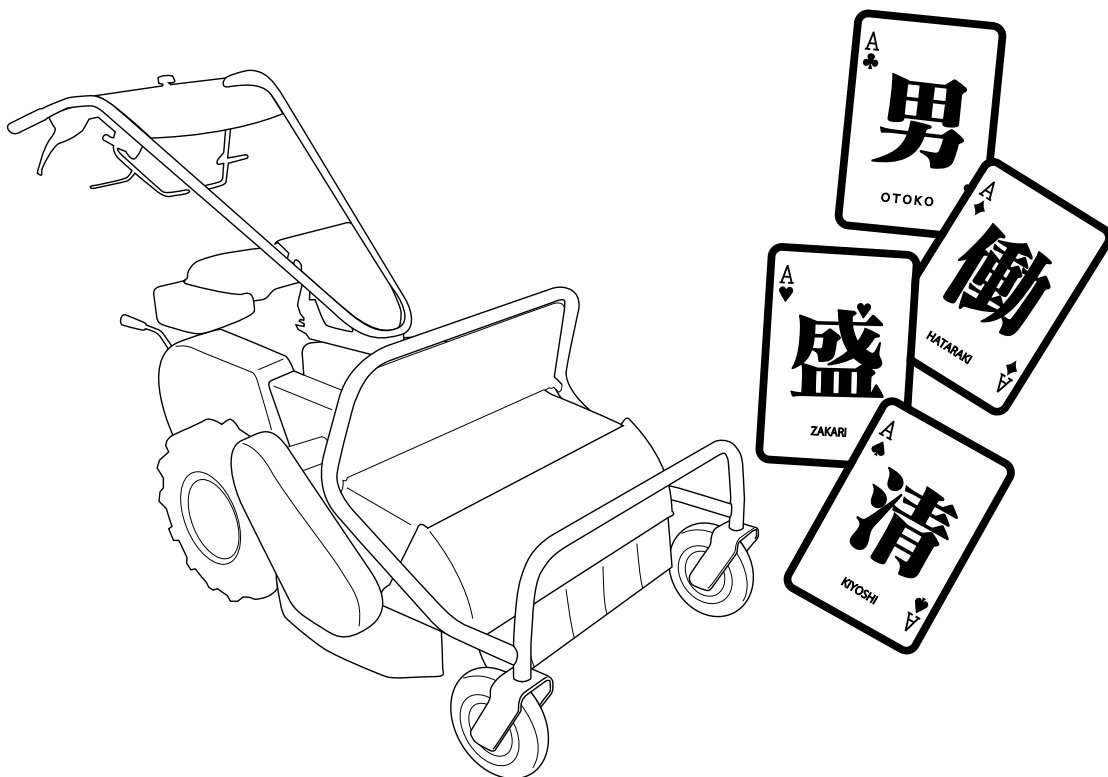


新型美残刈機

GANYCOM

男働盛清 MH60

取扱説明書



⚠ 警告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

5358 5501 002

株式会社 筑水キャニコム

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

.....
ご注文、製品に関するお問合せは
アドバンスオーダーセンター
TEL (0943)75-8055 FAX (0943)75-8060
.....

部品、修理に関するお問合せは
パーツ・サービスセンター
TEL (0943)75-3170(代) FAX (0943)75-5861

連絡先控え(販売店名)

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的として作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

警告

- 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
.....
 - 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
.....
 - 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。
-





本製品について

警告

- 本製品は草刈作業車です。草刈作業以外の用途には使用しないでください。
 - 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
 - 本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
 - 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。
-

警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意味
 危険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービス

●保証について

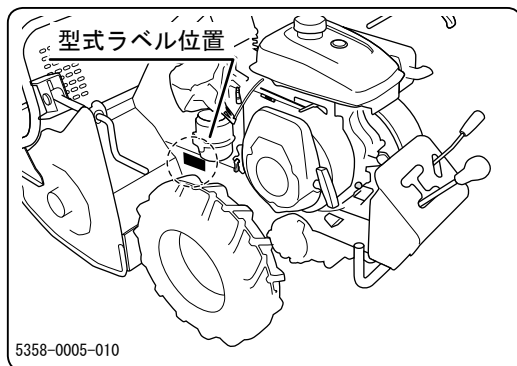
当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

●アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。

搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」を参照してください。（☞14ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



●補修部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年とします。

目次

1. 安全に関する注意事項	1
警告ラベル	1
安全装置について	2
安全運転・作業のための心得	3
運転前の心得	3
運転・作業時の心得	4
駐車時の心得	8
整備時の心得	9
2. 各部の名称とはたらき	11
各部の名称とはたらき	11
3. 製品仕様	14
本製品の仕様	14
付属品明細	16
4. 運転と操作	17
運転前の準備	17
始業点検	17
燃料の点検と補給	18
ハンドル位置の調節	19

運転のしかた	21
始動のしかた	21
運転のしかた	24
停止のしかた	27
駐車 of しかた	28
作業のしかた	30
刈刃の点検	30
刈高さの調節	30
作業のしかた	31

5. 保守・お手入れ 36

定期点検表	36
エンジンの点検	36
車両の点検	37
給油・給水一覧表	40
給脂一覧表	40
消耗部品（交換部品）一覧表	41
カバーの開けかたおよび取り外しかた	43
センターカバーの取り外しかた	43
ベルトカバーの取り外しかた	44
チェンジガイドの取り外しかた	44
刈刃ベルトカバーの取り外しかた	45
刈刃カバーの開けかた	45

エンジン	46
エンジンオイルの点検・補給・交換	47
エアクリーナの清掃・交換	49
点火プラグの点検・清掃・交換	50
走行装置	50
タイヤ空気圧の点検・調整	51
トランスミッションオイルの交換	52
Vベルトの点検・調整	53
ブレーキの点検・調整	55
サイドクラッチレバーの点検・調整	56
刈取装置	57
刈刃の点検・交換	57
刈刃クラッチの調整	61
刈刃ベルトの調整	63
使用後のお手入れ	64
通常使用後のお手入れ	64
寒冷期使用後のお手入れ	66
長期保管のしかた	66

6. 不具合発生時の処置 69

不具合診断表	69
--------	----

7. 本製品の移送 74

本製品の移送	74
トラックへの積み下ろしのしかた	74
吊り上げ要領	76

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

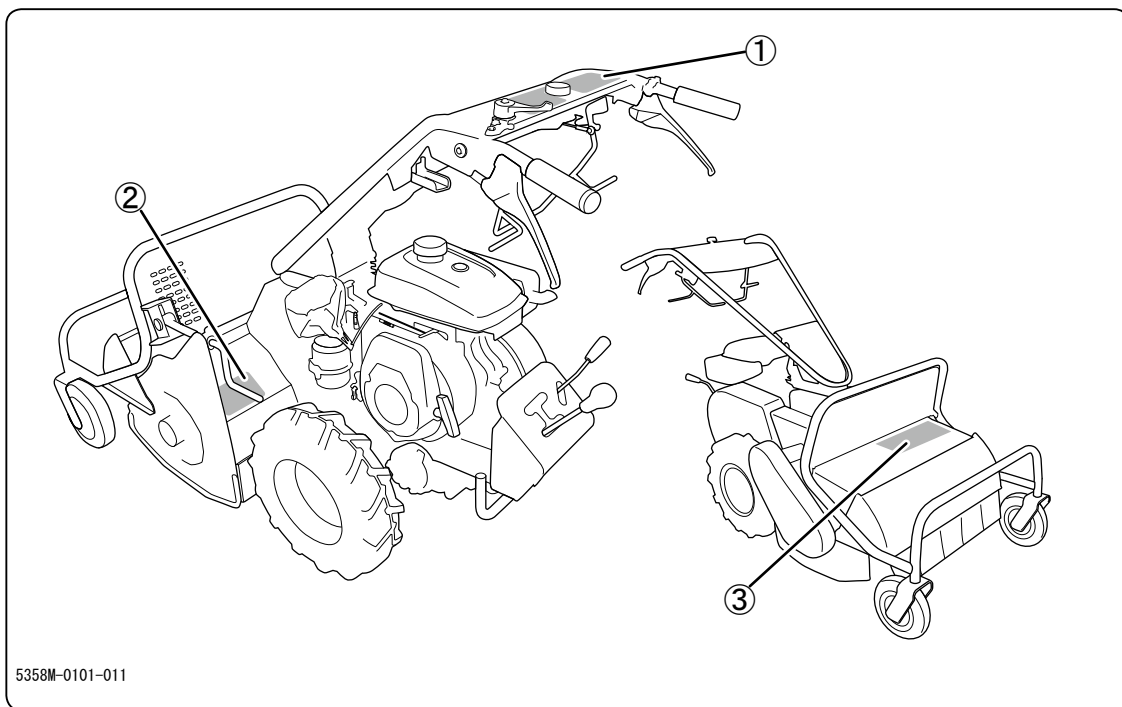
※本書とあわせて必ずお読みください。

安全に関する注意事項 1

警告ラベル

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

- 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



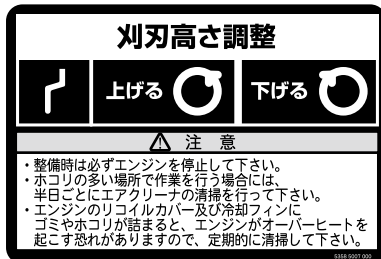
① 安全に関する注意事項

安全に関する
注意事項

① 5358 5003 001



② 5358 5007 000



③ 5358 5004 000



5358M-0101-021

安全装置について

本製品には以下の安全装置が装備されています。

始動安全装置

走行クラッチと刈刃クラッチが[切]でなければエンジンが始動しません。

緊急停止スイッチ

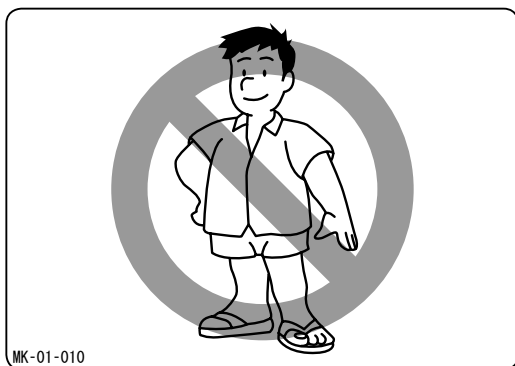
緊急時にメインスイッチを押すと、エンジンが停止します。

安全に関する注意事項 1

安全運転・作業のための心得

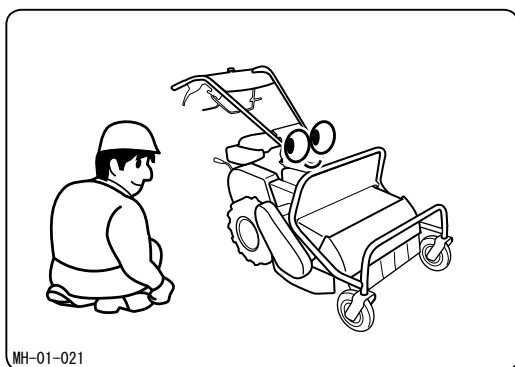
運転・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転・安全作業を心がけてください。

●運転前の心得



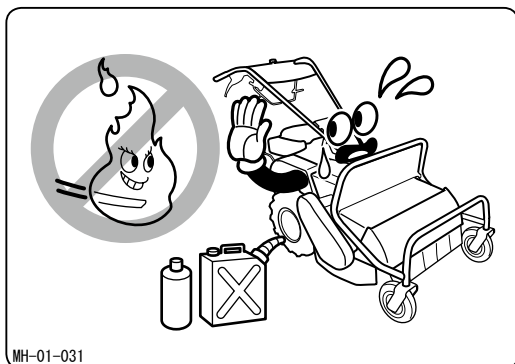
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。



始業点検の励行

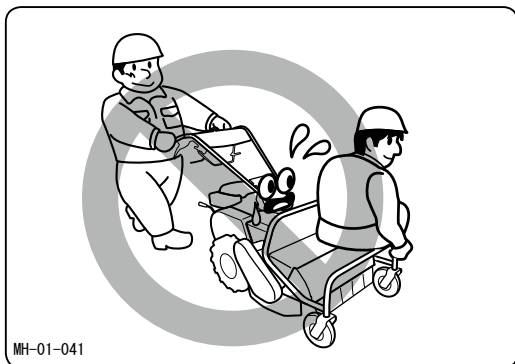
運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。また、車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。



火気厳禁

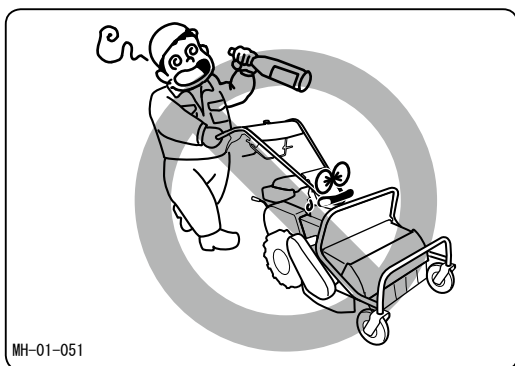
燃料・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、給油は必ずエンジンを停止した状態で行なってください。

① 安全に関する注意事項



乗車禁止

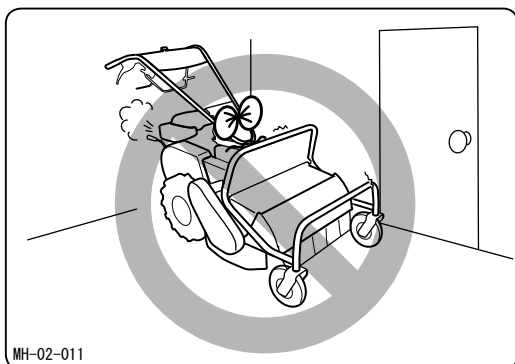
本製品は乗車できません。また、人や物を乗せての運転も行わないでください。



無謀運転禁止

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

● 運転・作業時の心得

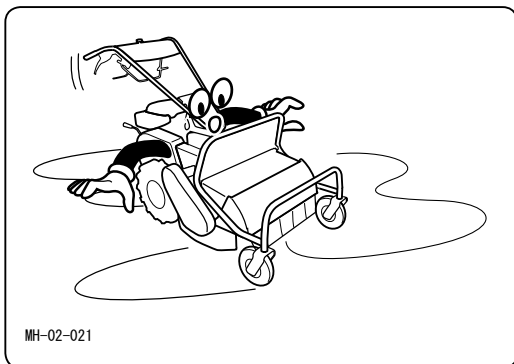


換気の悪い場所での始動・運転禁止

エンジンの始動・運転は必ず換気のよい場所で行なってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

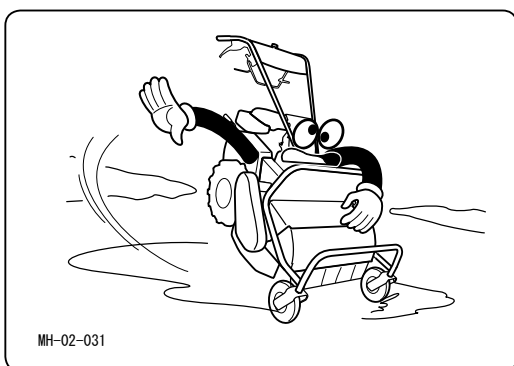
安全に関する注意事項 1

安全に関する
注意事項



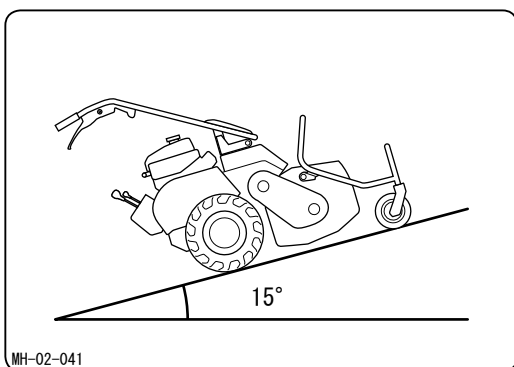
安全速度遵守

発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた安全速度で走行してください。



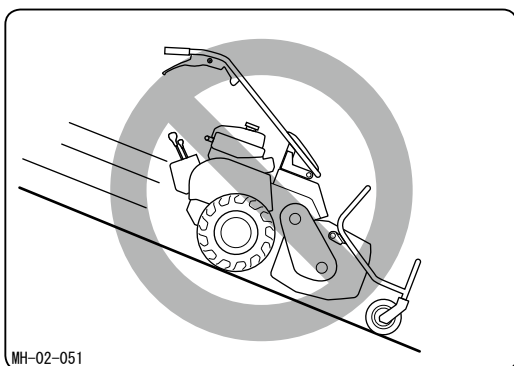
急発進・急加速・急旋回・急停止の禁止

急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



急傾斜地での使用禁止

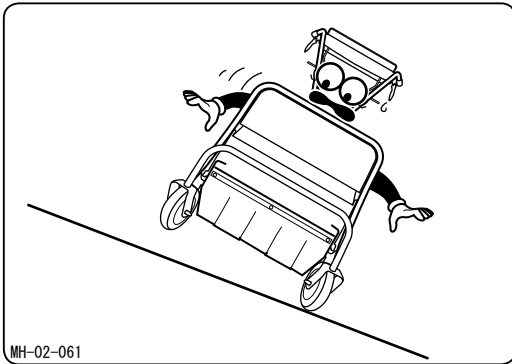
運転・作業の前に必ず斜面の角度を確認し、車体の前後方向で 15° 以上の急傾斜地では本製品を使用しないでください。



傾斜地での注意

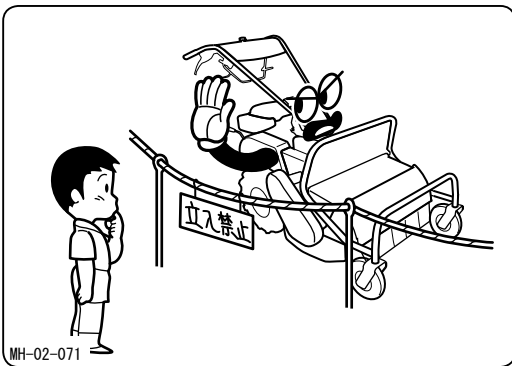
傾斜地では低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

① 安全に関する注意事項



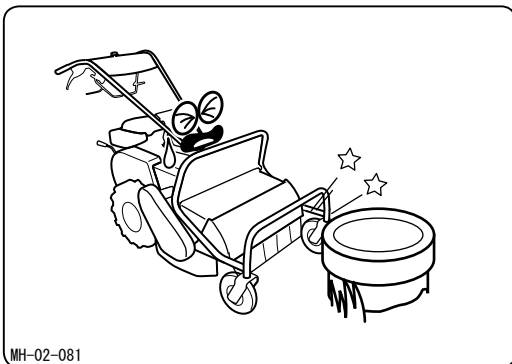
急斜面の横断・旋回禁止

10°以上の斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。また、斜面では旋回しないでください。車両が逆旋回したり、スリップや転倒をしたたりするおそれがあります。



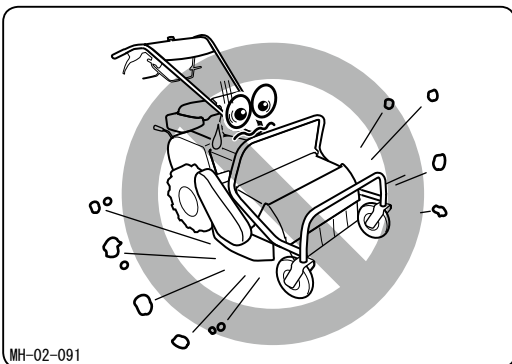
作業中の安全確保（立入禁止）

運転・作業時は本製品の周辺に人（特に子供）を近づけないでください。必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。



穴・溝・障害物等に注意

運転・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して運転・作業を行ってください。

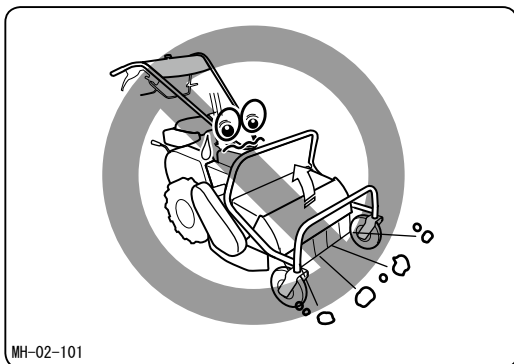


周囲へ配慮する

小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。

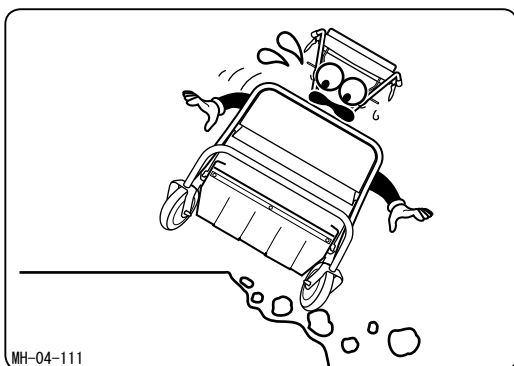
安全に関する注意事項 1

安全に関する
注意事項



刃カバーを開けての作業禁止

刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。



路肩の崩れに注意

溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。

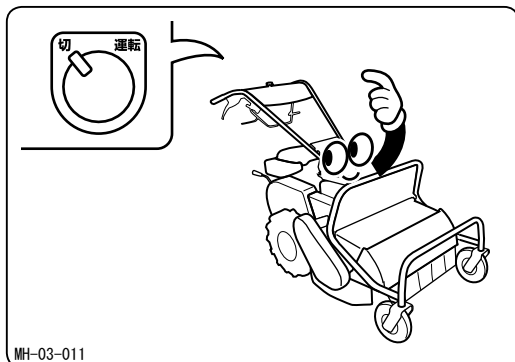


夜間作業の禁止

本機には夜間作業用のライトは装備されていません。夜間やトンネル内部などの暗い場所で、十分な照明が確保されていない場所では本機を使用しないでください。

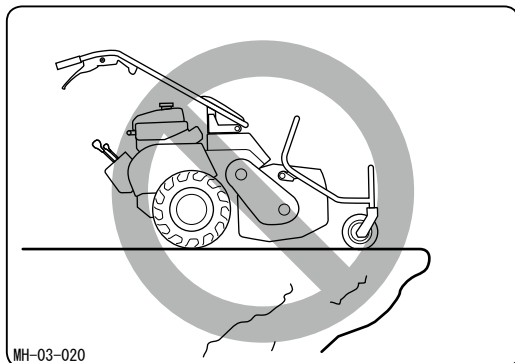
1 安全に関する注意事項

● 駐車時の心得



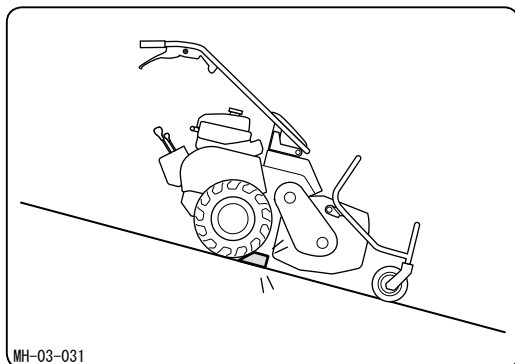
駐車時の安全確認

駐車時は必ずメインスイッチを[切]にしてエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。



危険な場所での駐停車禁止

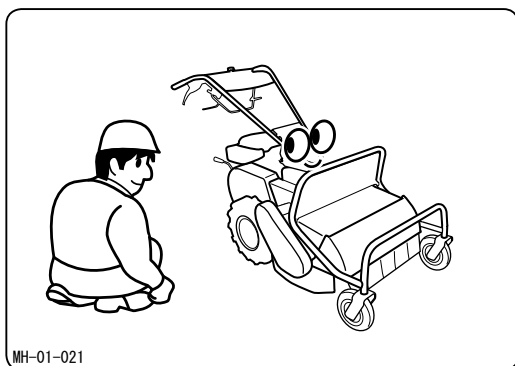
駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。また、燃えやすいものの近くには駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。

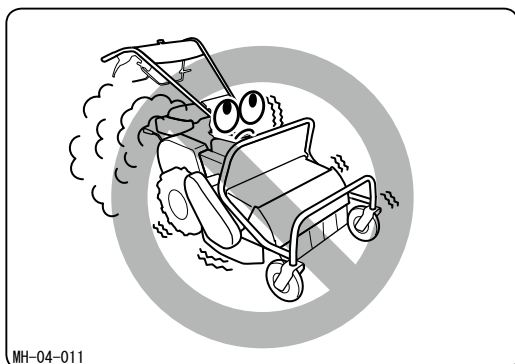
安全に関する注意事項 1



使用後の清掃の励行

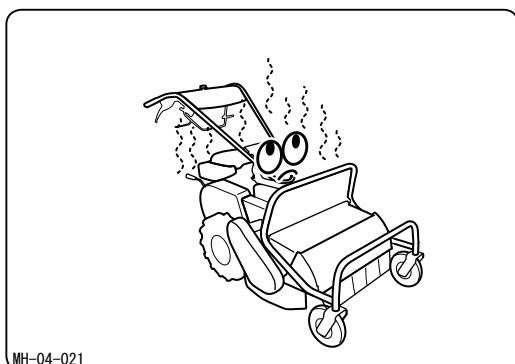
使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

●整備時の心得



点検・整備時エンジン停止

点検および整備時は必ずエンジンを停止し、メインスイッチを[切]にしてください。

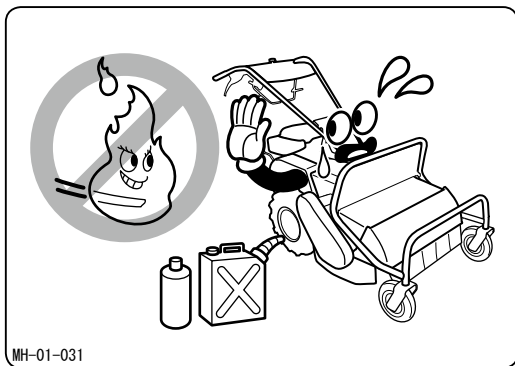


やけどに注意

エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから整備を行ってください。

① 安全に関する注意事項

安全に関する
注意事項



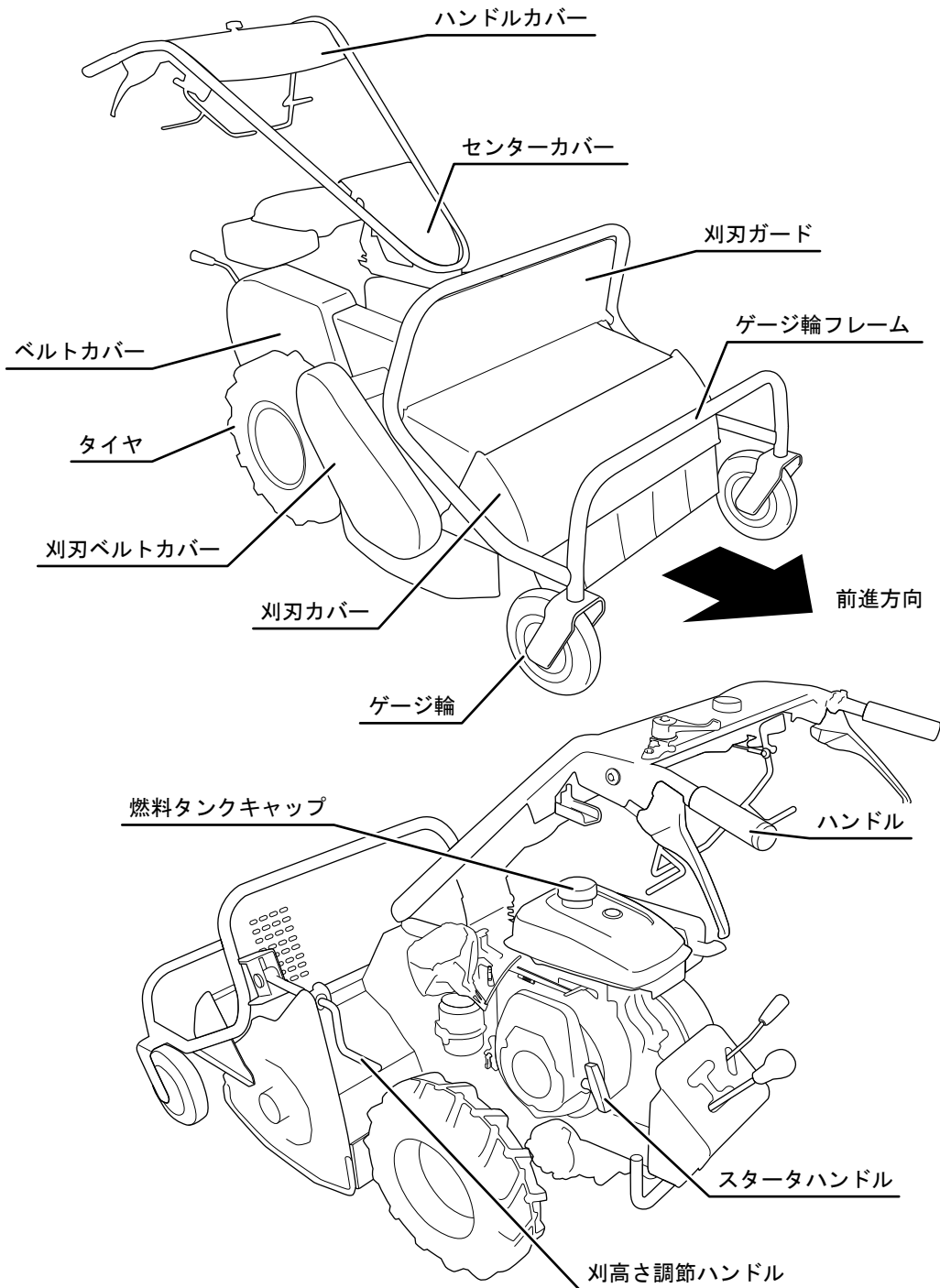
火気厳禁

エンジンの整備時やバッテリーの充電時は、火気を近づけないでください。

各部の名称とはたらき ②

●各部の名称とはたらき

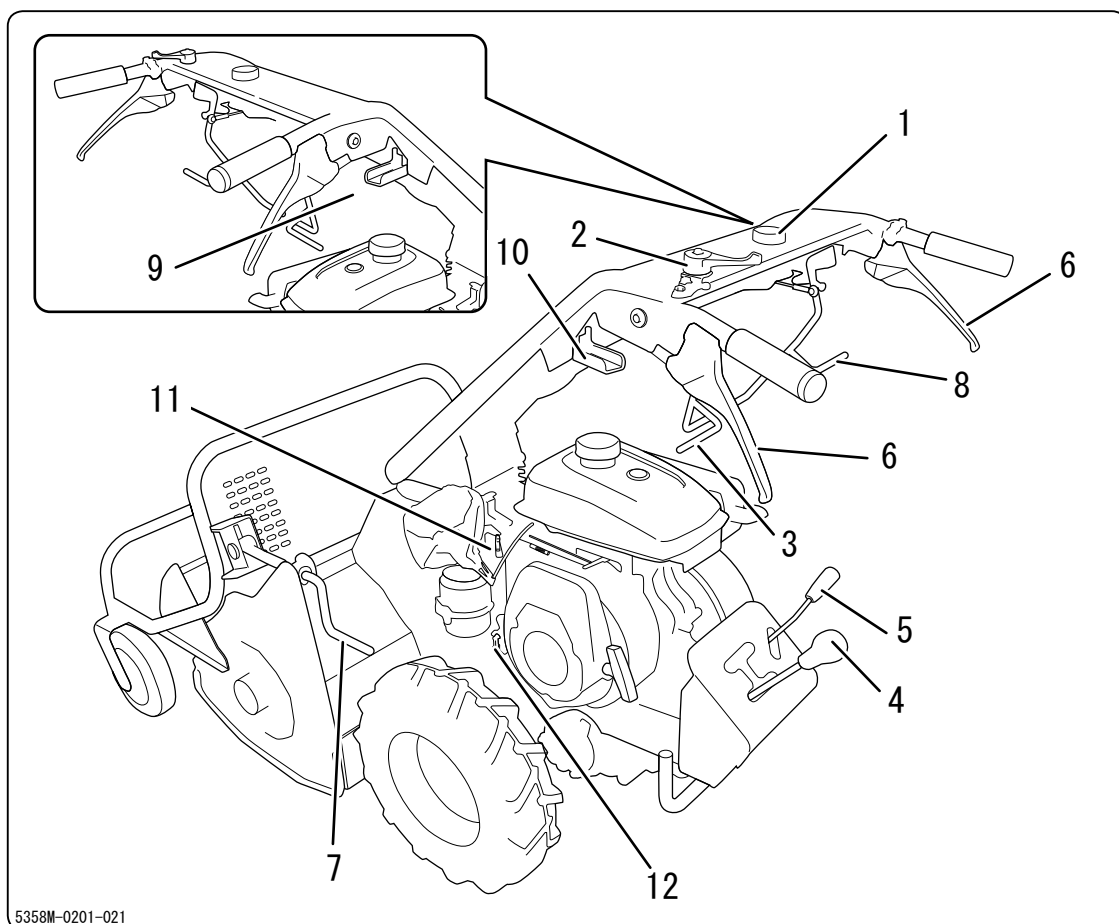
各部の名称と
働き



5358M-0201-011

② 各部の名称とはたらき

各部の名称と
働き



1 メインスイッチ …………… エンジンの電源を接続または遮断し、始動および停止するときに使用します。緊急時にメインスイッチを押すと、自動的に[切]になります。

2 アクセルレバー …………… エンジン回転数を増減するときに使用します。

3 走行クラッチレバー …… エンジンからの動力を伝達、または遮断します。[切]にすると連動して駐車ブレーキがかかります。

各部の名称とはたらき ②

- 4 変速レバー …………… 車両の前後進、走行速度を切り替えるときに使用します。
- 5 副変速レバー …………… 車両の走行速度を切り替えるときに使用します。
- 6 サイドクラッチレバー …… 車両を旋回させるときに使用します。右レバーを握ると右へ、左レバーを握ると左へ旋回します。
- 7 刈高さ調節ハンドル …… 刈刃を上昇または下降するときを使用します。左に回すと上昇、右に回すと下降します。
- 8 刈刃クラッチレバー …… 刈刃を回転および停止するときを使用します。
- 9 ハンドル高さ調節レバー …… ハンドル高さを調節するときを使用します。
- 10 ハンドル旋回レバー …… ハンドルを旋回するときを使用します。ハンドルは左右最大42° 旋回します。
- 11 チョークノブ …………… エンジンを始動するときを使用します。チョークバルブの開閉を行います。
- 12 燃料コック …………… 燃料弁の開閉を行います。

③ 製品仕様

● 本製品の仕様

⚠ 注意

- ・ 本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

製品仕様

名称・型式		MH60	
機 械 質 量	kg	145	
作 業 能 率	m ² /h	2470*1	
機 械 寸 法	全 長	mm	1570~1690*2
	全 幅	mm	705
機 械 寸 法	全 高	mm	890~1140*2
	タイヤサイズ		4.00-7 (4PR)
	ト レ ッ ド	mm	前 594 後 480
機 械 寸 法	最低地上高	mm	110
	名 称		三菱 GB181
機 械 寸 法	形 式		空冷4サイクルガソリン単気筒
	内 径 × 行 程	mm	68 × 50
機 械 寸 法	総 排 気 量	cm ³	181
	最 大 出 力	kW(PS)	4.6(6.3)
機 械 寸 法	最 大 ト ル ク	N・m(kgf・m)	23.1[2.36]
	始 動 方 式		リコイル式

*1 6速における作業速度での最高能率（計算値）

*2 ハンドル位置および刈高さの設定により変わります。

製品仕様 3

名称・型式			MH60
エンジン	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量		ℓ 3.0
	潤滑油容量		ℓ 0.55
	点火方式		無接点式マグネト一点火
	点火プラグ品番		NGK BP6HS
性能	走行	前進 1 速	km/h 0.4
		前進 2 速	km/h 0.7
	行	前進 3 速	km/h 1.2
		前進 4 速	km/h 1.7
		前進 5 速	km/h 2.8
		前進 6 速	km/h 4.5
	度	後進 1 速	km/h 0.6
		後進 2 速	km/h 2.1
	最小回転半径		m 1.0
	登坂能力		度 15
能	最大安定傾斜角度	左	度 30 (静止状態)
		右	度 30 (静止状態)
動力伝達装置	クラッチ形式		ベルトテンション式
	主変速形式		ギヤスライド
	副変速機形式		ギヤスライド
	操行装置形式		爪ロック式
	ブレーキ形式		内拡式ブレーキ
	トランスミッション油量		ℓ 1.5

③ 製品仕様

名称・型式			MH60
刈 取 装 置	刈幅	mm	530
	刈高さ	mm	0~100（無段階）
	刈刃形式		フリー刃
	刈刃枚数	枚	30
	刈刃駆動方式		ベルト駆動サイドドライブ

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

製品仕様

● 付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1	エンジン整備用

運転前の準備

● 始業点検

⚠ 警告

- 運転の前には必ず始業点検をおこない、異常箇所はただちに補修してください。
- 車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。
火災のおそれがあります。
- エンジンの空気吸入口に草などが堆積するとオーバーヒートし、
車体へ異常が発生する可能性があります。
- 始業前に必ずエンジンの空気吸入口を点検し、草などが堆積して
いる場合は直ちに清掃してください。

運転前には必ず始業点検を行ってください。

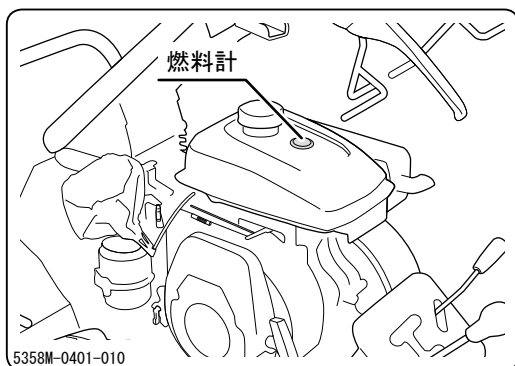
参 照 点検の要領…36ページ「定期点検表」

4 運転と操作

● 燃料の点検と補給

⚠ 警告

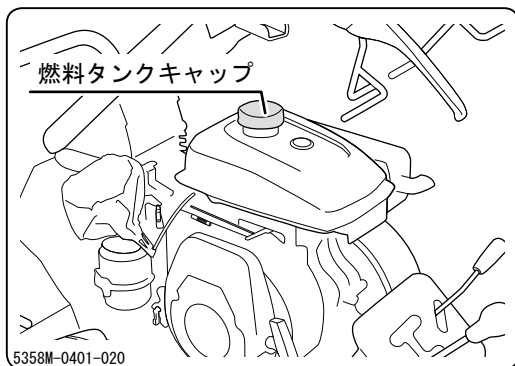
- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにして、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。
- 燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



- 1 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。

👉 アドバイス

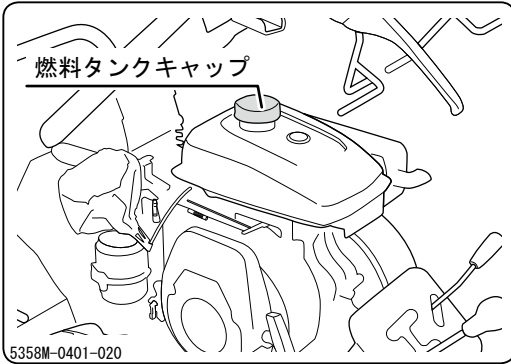
- ハンドルを旋回させると（→ 20ページ）燃料の確認、補給がしやすくなります。



- 2 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

👉 アドバイス

- 使用燃料：
自動車用無鉛ガソリン
- 燃料タンク容量：3.0ℓ

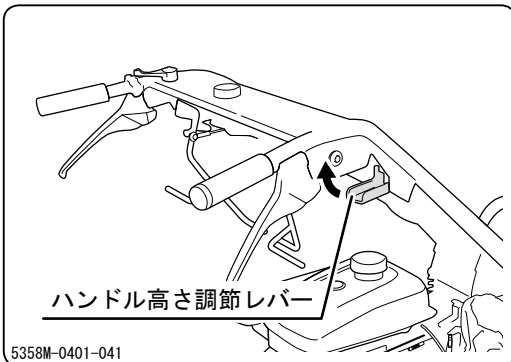


- 3 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

●ハンドル位置の調節

⚠ 注意

- ハンドルの調節後は、ハンドルを前後上下に動かし、確実に固定されていることを確認してください。
- ハンドルを一番右側に旋回して操作する時は、エンジン排気が足などに当たらないように注意して下さい。やけどや服が汚れるおそれがあります。



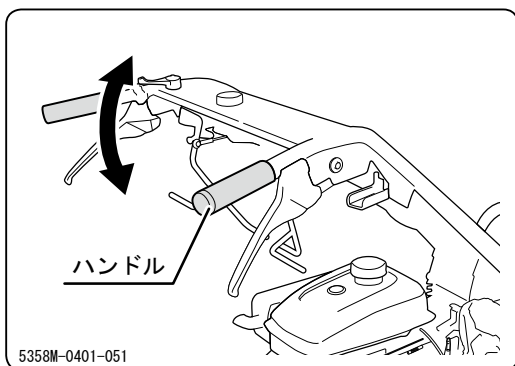
高さの調節

- 1 ハンドル高さ調節レバーをにぎり、ハンドルを好みの位置へ動かします。

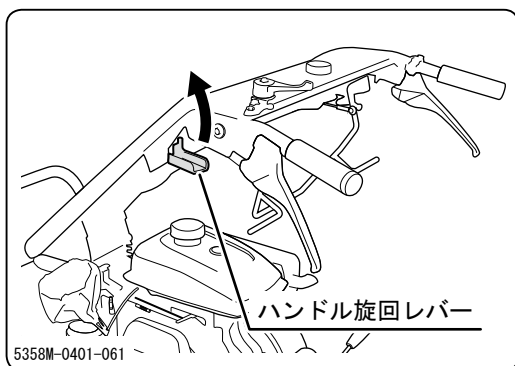
👉 アドバイス

- ハンドルの高さは3段階に調節できます。

4 運転と操作

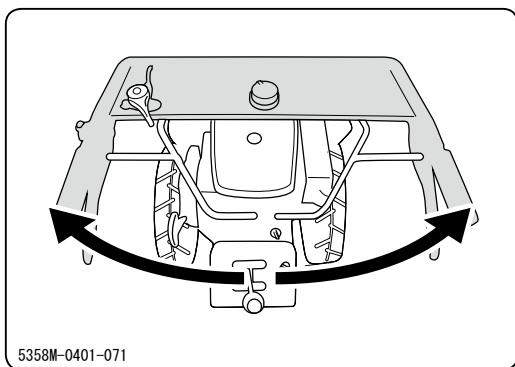


- ② ハンドル高さ調節レバーを離し、ハンドルを固定します。



ハンドルの旋回

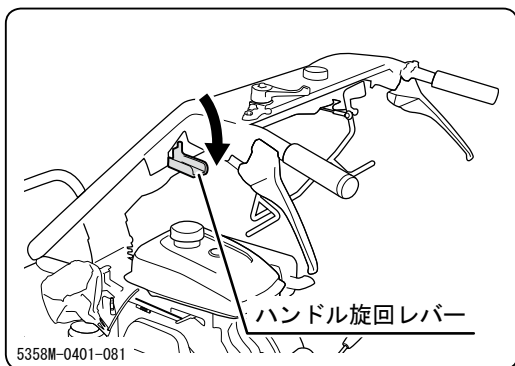
- ① ハンドル旋回レバーをにぎります。



- ② ハンドルを回します。

アドバイス

- ・ハンドル旋回角度：42°
(左右各2段階)
- ・ハンドルを一番右の位置に回した時は、足にエンジン排気がかからないよう注意して下さい。



- ③ ハンドルがカチッと固定される位置まで回します。ハンドル旋回レバーが下がっており、ハンドルが確実に固定されていることを確認します。

運転のしかた

●始動のしかた

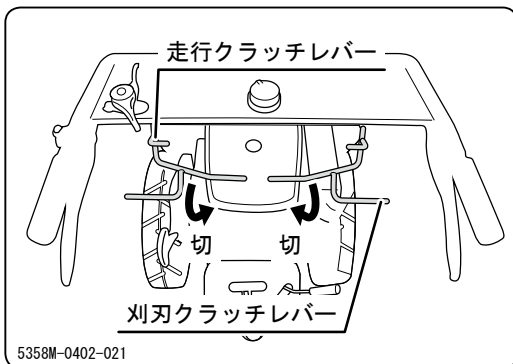
⚠ 警告

- ・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。
- ・エンジンの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

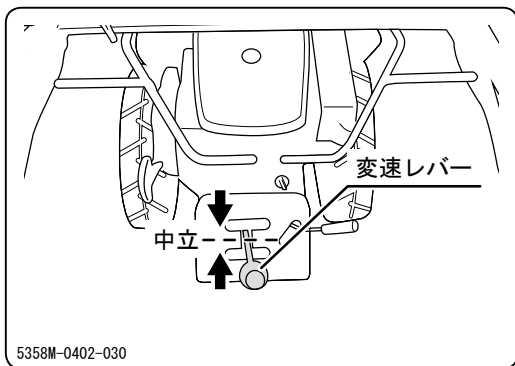
⚠ 注意

- ・始動時はアクセルレバーを[低速]にして始動してください。
- ・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。

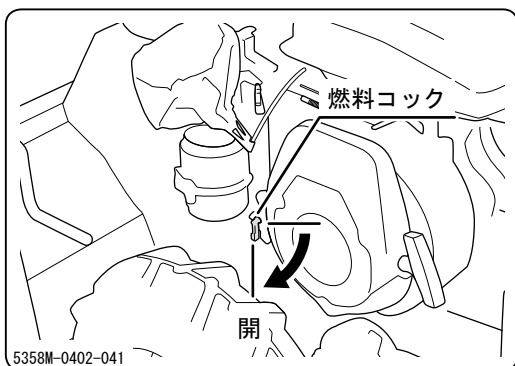
- 1 車両の前後、左右の安全を確認します。
- 2 走行クラッチレバーと刈刃クラッチレバーがそれぞれ[切]の位置にあることを確認します。



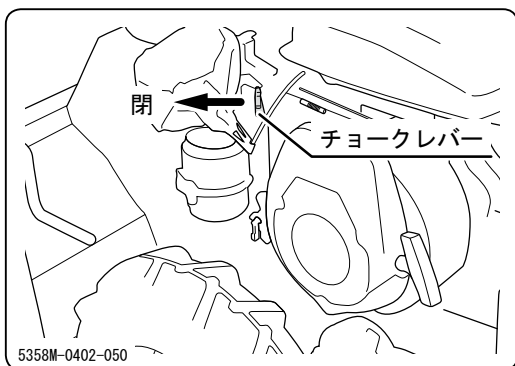
4 運転と操作



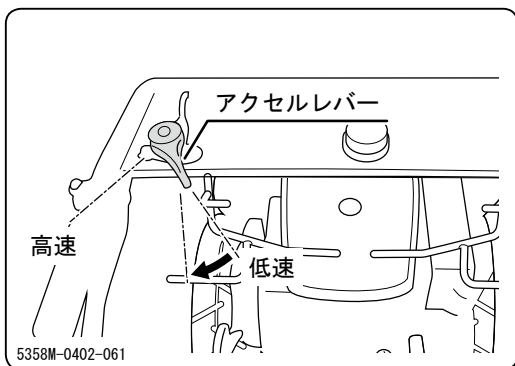
- 3** 変速レバーが中立位置にあることを確認します。



- 4** 燃料コックを[開]にします。

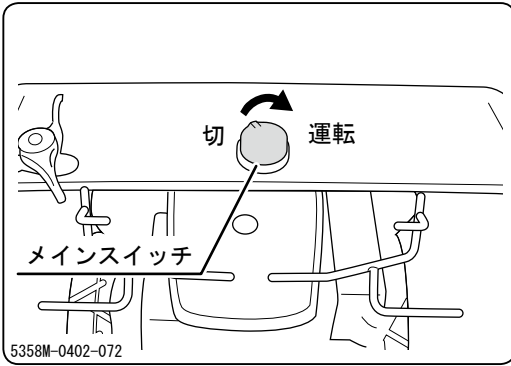


- 5** チョークレバーを[閉]にします。

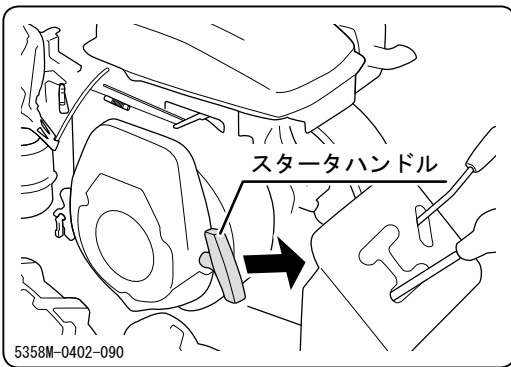


- 6** アクセルレバーを[高速]側に少し動かします。

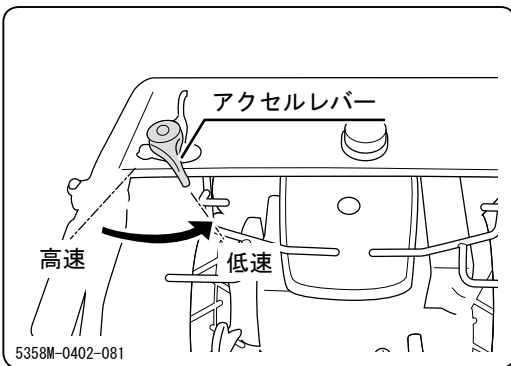
運転と操作 4



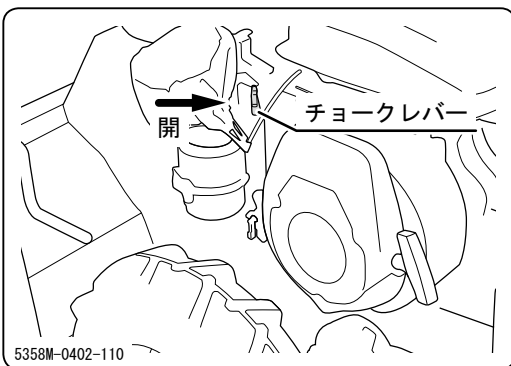
- 7** 緊急停止スイッチが[運転]にあることを確認します。[停止]にある場合は右に回して[運転]にします。



- 8** スタータハンドルを勢いよく引き、エンジンを始動します。



- 9** エンジン始動後、アクセルレバーを[低速]にします。



- 10** チョークレバーを戻します。

- 11** 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

4 運転と操作

アドバイス

- ・購入後、最初の一週間（約40～50時間）は慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

●運転のしかた

警告

- ・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- ・発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。
- ・チョークレバーが完全に戻っていない（「半チョーク」）状態で運転しないで下さい。マフラーが加熱し、火災になるおそれがあります。
- ・急発進・急加速・急旋回を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。特に5、6速で発進する時は、アクセルレバーを[高速]と[低速]の間ぐらいにして発進し、旋回する時もサイドクラッチレバーを全部握らず、半分ぐらいの位置で操作してください。
- ・傾斜地では副変速レバーを[低速]にし、低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。また、車両の安定角度を越える急傾斜地では運転しないでください。

運転と操作 4

警告

- ・傾斜が10°以上の斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をする恐れがあります。
- ・斜面で旋回しないで下さい。車両が逆走行したり、スリップや転倒したりするおそれがあります。
- ・見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を充分行ってから走行してください。

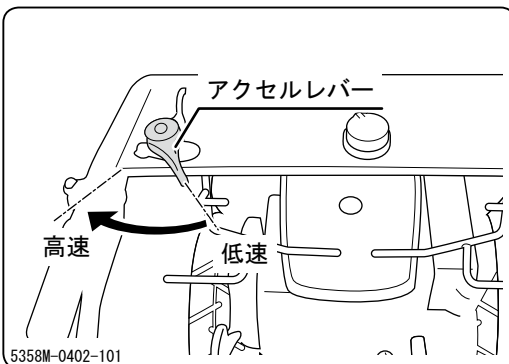
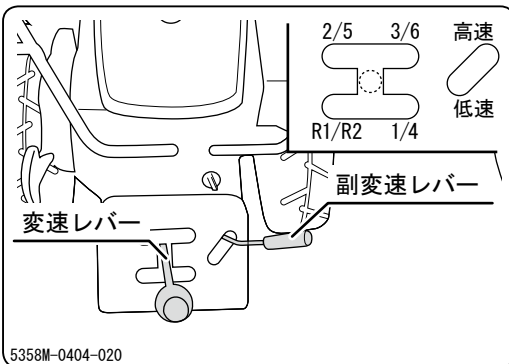
1 車両の前後・左右の安全を確認します。

2 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

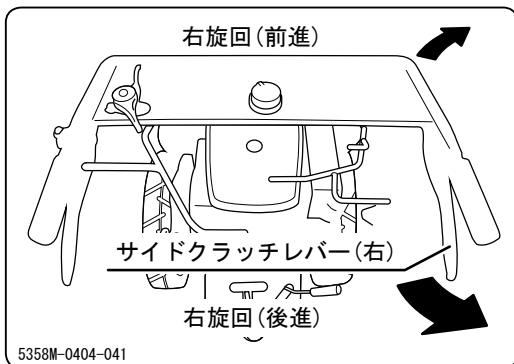
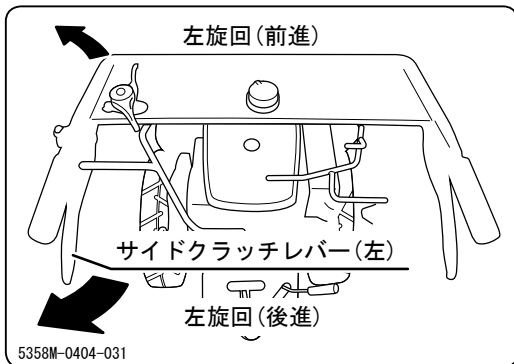
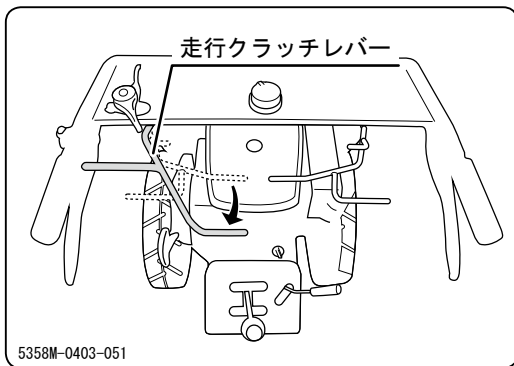
アドバイス

- ・変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを[走行]側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。

3 アクセルレバーを[高速]側に動かし、エンジンの回転数を上げます。



4 運転と操作



アドバイス

- 5速もしくは6速で発進する場合は、アクセルレバーを[高速]と[低速]の間くらいにして発進してください。[高速]で発進すると急発進の恐れがあり危険です。

- 4 走行クラッチレバーを[入]にし、車両を発進させます。

アドバイス

- 各変速位置での走行速度については「本製品の仕様」(15ページ)を参照してください。

- 5 左旋回したい場合は左側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

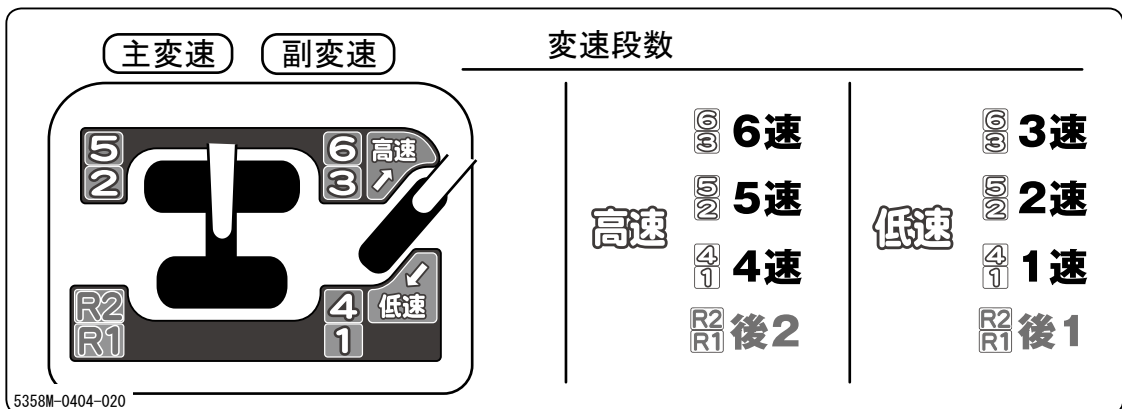
- 6 右旋回したい場合は右側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

アドバイス

- 5速もしくは6速での走行中に旋回する場合は、サイドクラッチレバーを最後まで握ると急旋回する恐れがあります。高速で走行中はサイドクラッチを半分程度で操作してください。

アドバイス

- 変速レバー、副変速レバーと変速段数の関係は下のイラストレーションのようになります。

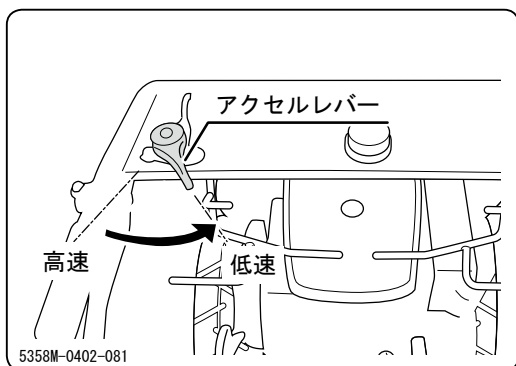


●停止のしかた

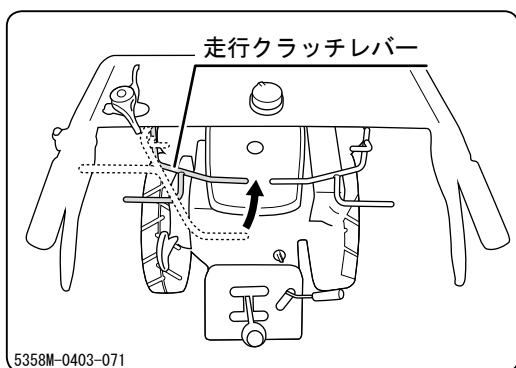
警告

- 急停止を行わないでください。運転者が転倒したり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- 停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。
- 燃えやすいものの近くには停止しないでください。

4 運転と操作



- 1 アクセルレバーを[低速]側に動かし、車両を減速します。



- 2 走行クラッチレバーを[切]にし、車両を停止します。

アドバイス

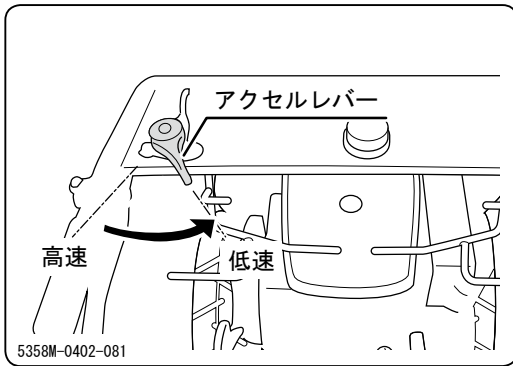
- 走行クラッチレバーを[切]にすると連動して駐車ブレーキが掛ります。

● 駐車のかた

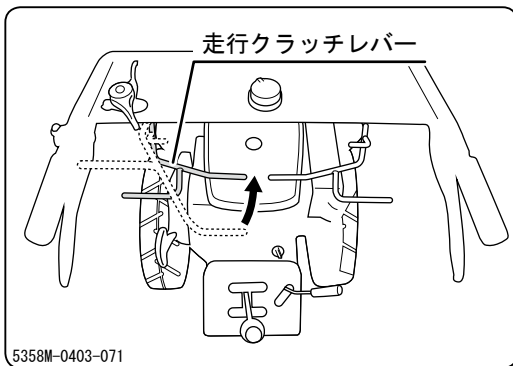
警告

- ・ 駐車時は必ず走行クラッチレバーを[切]にして駐車ブレーキをかけ、メインスイッチを[切]にしてください。
- ・ 駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。また、燃えやすいものの近くには駐車しないでください。
- ・ 傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。

運転と操作 4



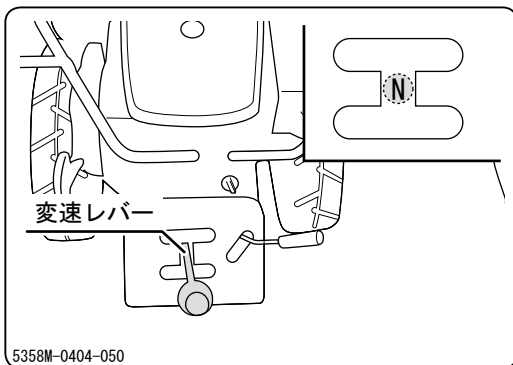
- 1** アクセルレバーを[低速]側に動かし、車両を減速します。



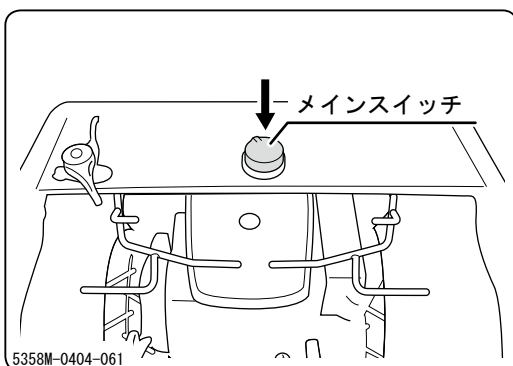
- 2** 走行クラッチレバーを[切]にし、車両を確実に停止します。

アドバイス

- 走行クラッチレバーを[切]にすると連動して駐車ブレーキが掛ります。



- 3** 変速レバーを[N(ニュートラル)]にします。

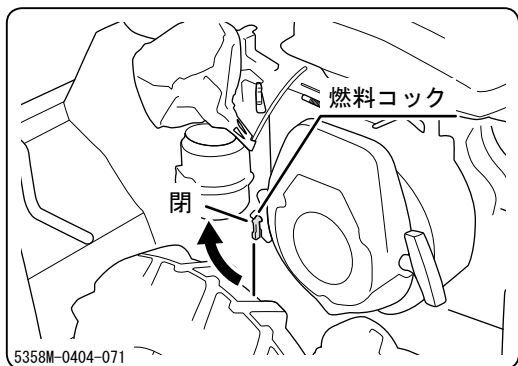


- 4** メインスイッチを押して[停止]にし、エンジンを停止します。

アドバイス

- メインスイッチを押すと、自動的に[停止]に戻ります。

4 運転と操作



5 燃料コックを[閉]にします。

作業のしかた

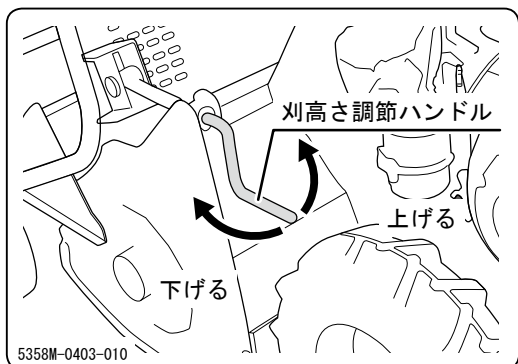
● 刃の点検

作業の前に刃の点検を行ってください。

参照 点検の要領…57ページ「刃の点検・交換」

運転と操作

● 刃高の調節



1 刃高さ調節ハンドルを回し、刃高さを調節します。

アドバイス

・ 刃高さ調節範囲：

0mm～約100mm

●作業のしかた

⚠ 危険

- ・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警告

- ・作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。
- ・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して作業を行ってください。
- ・作業の前に必ず斜面の角度を確認し、車体の前後方向で15°以上の急傾斜地では作業を行わないでください。また、傾斜10°以上の斜面を横断しないでください。転倒する恐れがあります。
- ・小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。
- ・刈刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

4 運転と操作

⚠ 警告

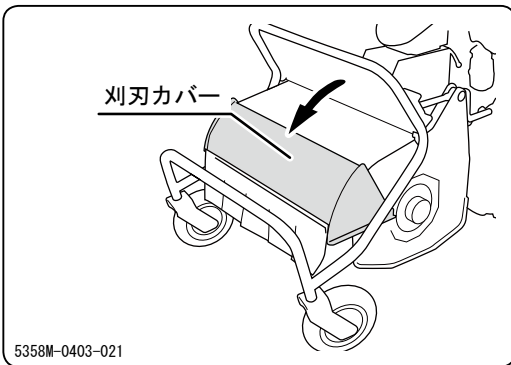
- 作業は前進で行ってください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。
- 刈刃クラッチは作業直前に入れ、作業時以外は必ず[切]にしてください。
- 溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。
- 緊急時はメインスイッチ押してください。メインスイッチが自動的に[切]に戻り、エンジンが停止します。
- エンジンの空気吸入口に草などが堆積するとオーバーヒートや熱による車体の異常が発生する可能性があります。始業前に必ずエンジンの空気吸入口を点検し、草などが堆積している場合は直ちに清掃してください。

⚠ 注意

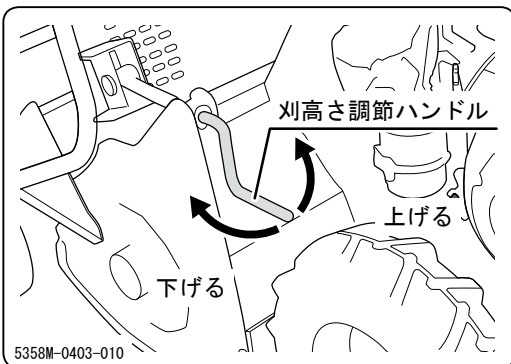
- ほこりの多い場所で作業を行う場合には、半日ごとにエアクリーナエレメントの清掃とエアクリーナ・オイルの点検を行ってください。エレメントの汚れや、オイル量の低下がひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

⚠ 注意

- 刈刃が折損した場合には、ただちに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。
- 刈刃に異物が巻き付いた場合には、ただちにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

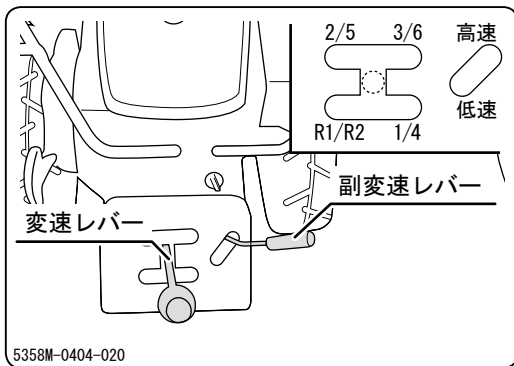


- 1 刈刃カバーが閉じていることを確認します。

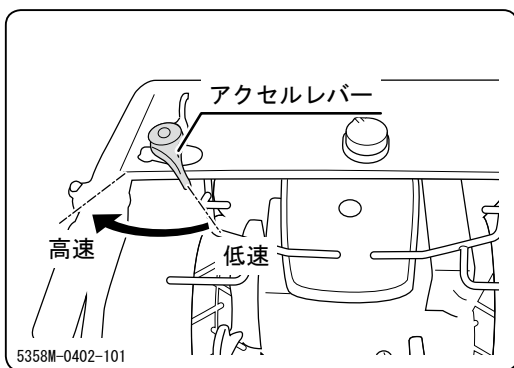


- 2 刈高さ調節ハンドルで刈高さを設定します。

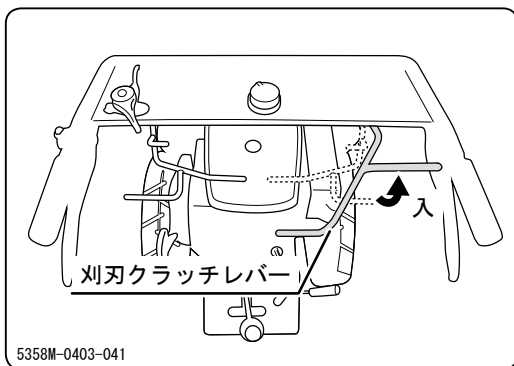
4 運転と操作



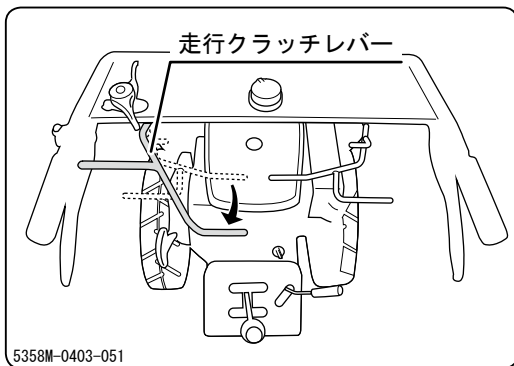
- 3 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。



- 4 アクセルレバーを[高速]にして、エンジンの回転数を上げます。

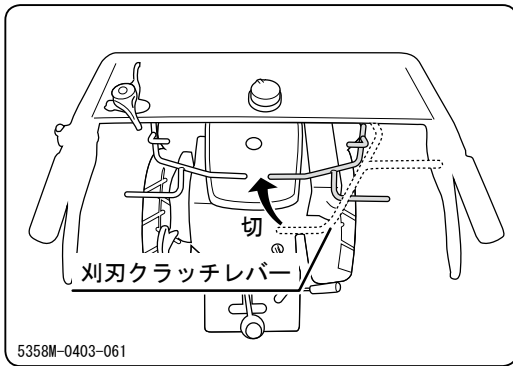


- 5 刈刃クラッチレバーを[入]にし、刈刃を回転させます。

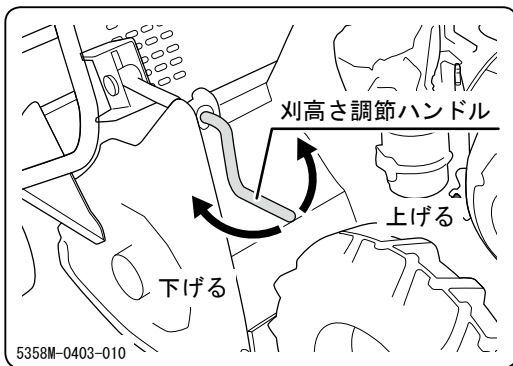


- 6 走行クラッチレバーを[入]にし、車両を前進させ、作業を行います。

運転と操作 4



- 7 刈刃を停止するときは刈刃クラッチレバーを[切]にして、刈刃を停止します。



- 8 刈高さ調節ハンドルで刈高さを最高位置にします。

アドバイス

- ・初めて作業を行う場合は、平坦地を選び、刈跡が少し重複するようにゆっくりと刈ってください。
- ・負荷が大きい場合には、速度を落として作業をするか、2回に分けて刈ってください。

5 保守・お手入れ

定期点検表

⚠ 注意

- ・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。
- ・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

●エンジンの点検

日常点検

項目	内容
各部の清掃及び締付点検	各部のボルト・ナットの締付けを点検してください。各部、特にマフラー周辺とリコイルスタータ周辺の汚れ、詰まりなどを点検清掃してください。
異常振動・異常音	エンジンを始動した時に、異常な振動や音がないかを確認します。
エンジンオイルの量と汚れ	エンジンオイルの量を確認し、不足していたら補給します。また、オイルの汚れを目視確認し、汚れがひどい場合は交換します。ほこりの多い場所や過酷な現場では、より頻繁に確認します。
燃料、オイルの漏れ	燃料やオイルに漏れがないか確認します。
エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントを確認し、汚れてる場合は清掃します。劣化や破損が見られる場合は交換します。
エアクリーナオイルの量と汚れ	エアクリーナオイルの量を確認し、不足していたら補給します。汚れがひどい場合は交換します。

保守・お手入れ ⑤

定期点検

項目	作業頻度
エンジンオイル交換	初回25時間目、2回目以降50～100時間毎（ほこりの多い場所や過酷な現場での使用が多い場合は頻繁に交換して下さい。）
点火プラグの清掃	50～100時間毎
燃料ストレーナ（燃料コック）の清掃	50～100時間毎
シリンダヘッドカーボン除去	100～300時間毎（ほこりの多い場所や過酷な現場での使用が多い場合は頻繁に交換して下さい。作業は販売店に依頼してください。）
吸排気弁座点検すり合わせ	100～300時間毎（ほこりの多い場所や過酷な現場での使用が多い場合は頻繁に交換して下さい。作業は販売店に依頼してください。）
燃料ホース交換	3年毎（販売店に依頼してください）

●車両の点検

- ・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。
- ・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店へ依頼してください。

項目	点検内容	点検時期			備考		
		始業	月次	年次			
走行装置	ゲージ輪	○	○	○			
	タイヤ ホイール			○	○		
					○	○	
			○	○	○		

5 保守・お手入れ

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
走	タイヤ ホイール		○	○		
	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音、異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	Vベルト	Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○	☞53ページ
ベルトの張りが基準値内であること			○	○	☞53ページ	
行	走行クラッチ	アイドル状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること		○	○	
		クラッチを接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること		○	○	
装	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞55ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	
		ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること		○	○	
置	サイドクラッチ	操作時に異音がなく確実に作動すること	○		○	
		レバーの遊びおよび引きしろが適正であること	○	○	○	☞56ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	
ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○		
	連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○		

保守・
お手入れ

保守・お手入れ 5

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
車体・安全装置等	車枠 および 車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	カバー	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		取付ボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	マーク	警告、操作銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
刈取装置	刈取装置	刈刃に亀裂、損傷がないこと	○	○	○	→57ページ
		刈刃取付ボルト・ナットに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	→57ページ
		刈刃カバーに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	
		ゴム板に損傷、脱落のないこと	○	○	○	
		刈刃ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	
		給脂が十分であること		○	○	→41ページ

保守・
お手入れ

5 保守・お手入れ

給油・給水一覧表

項目	補給(交換)時期	推奨品	容量
燃料	随時	自動車用無鉛ガソリン	3.0ℓ
エンジンオイル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：25時間 2回目以降：50～100時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類 SE級以上 SAE分類 10W-30または 10W-40	0.55ℓ
エアクリーナオイル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 汚れたら交換	エンジンオイル	適量*1
トランスミッションオイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	1.5ℓ

*1 エアクリーナ・オイルパンのオイルレベル線まで。詳しくは付属のエンジン取扱説明書をご覧ください。

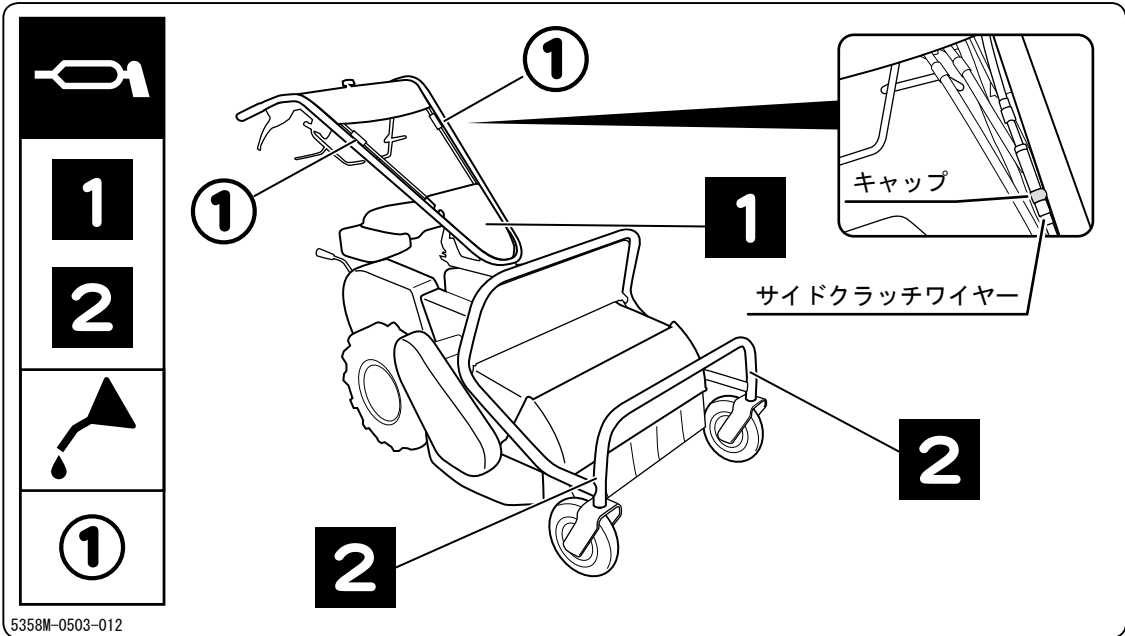
給脂一覧表

注 意

- ・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

保守・お手入れ 5

給脂箇所	補給時期	補給方法	推奨品
1 ハンドル回転軸	半年毎	グリースニップル	シャーシグリース
2 ゲージ輪軸	半年毎	塗布	シャーシグリース
① サイドクラッチワイヤ	半年毎	注油	エンジンオイル



5358M-0503-012

保守・
お手入れ

アドバイス

- 手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突ってください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。
- サイドクラッチワイヤーの注油は、ワイヤー調整部のカバーを外し、注油口にオイルを注します。注油後確実にカバーを装着してください。

5 保守・お手入れ

消耗部品（交換部品）一覧表

▲ 注意

- ・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施される場合は、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

項目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
エアクリーナエレメント	KA01069AA003	不具合があれば交換	1
スクリーン	KA90102BA	不具合があれば交換	1
点火プラグ (NGK BP6HS)	FA21273	不具合があれば交換	1
ワイヤ (アクセル)	5358 0102 000	不具合があれば交換	1
フューエルフィルタ	KF31035AA003	不具合があれば交換	1
走行装置			
タイヤ	5347 2202 000	不具合があれば交換	2
チューブ	5332 2203 000	不具合があれば交換	2
ゲージ輪	5358 4025 000	不具合があれば交換	2
ワイヤー (駐車ブレーキ)	5358 3109 000	不具合があれば交換	1
ワイヤー (走行クラッチ)	5358 3111 000	不具合があれば交換	1
ワイヤー (サイドクラッチ)	5358 3002 000	不具合があれば交換	2
ワイヤー (ハンドル旋回)	5358 1121 000	不具合があれば交換	1
Vベルト (走行)	0851 1300 034	不具合があれば交換	1
Vベルト (エンジン・中間プー ル)	0852 1300 043	不具合があれば交換	1
Vベルト (中間プーリー→刈刃ド ラム)	0852 1300 036	不具合があれば交換	1
刈取装置			
刈刃	5358 4211 000	不具合があれば交換	30
刈刃ボルト	5358 4212 000	不具合があれば交換	15
刈刃ナット	3587 4621 000	不具合があれば交換	15
刈刃ブレーキシュー	5358 2506 000	不具合があれば交換	1
刈刃クラッチワイヤ	5358 3306 000	不具合があれば交換	1

保守・お手入れ 5

項目	部品番号	交換インターバル	個数
ゴムイタ（フロント）	5358 1212 000	不具合があれば交換	1
ゴムイタ（リア）	5358 1213 000	不具合があれば交換	1

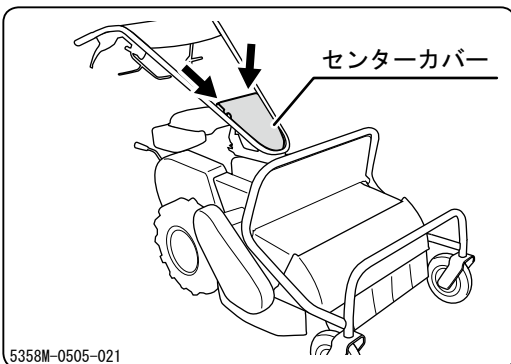
カバーの開けかたおよび取り外しかた

⚠ 注意

- ・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。
- ・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。
- ・カバーを外すときは、無理に力をかけないでください。カバーが破損する恐れがあります。

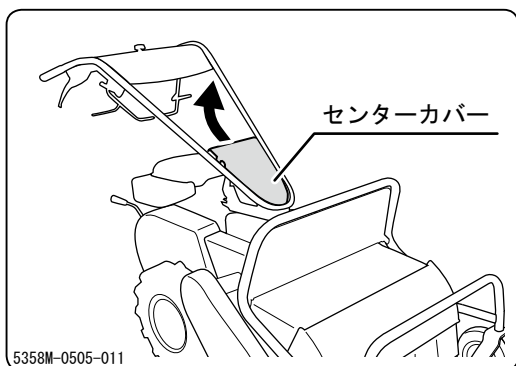
保守・
お手入れ

●センターカバーの取り外しかた



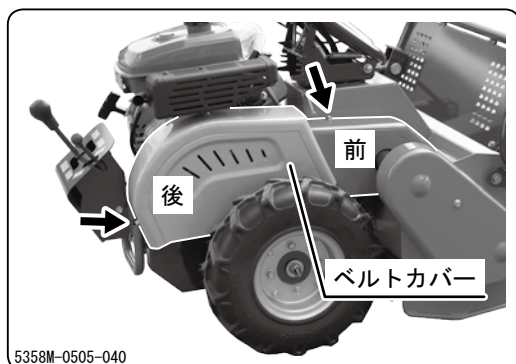
- 1 センターカバー後部のボルト（2本）を取り外します。

5 保守・お手入れ



- ② センターカバーを後上方に持ち上げ外します。

● ベルトカバーの取り外しかた

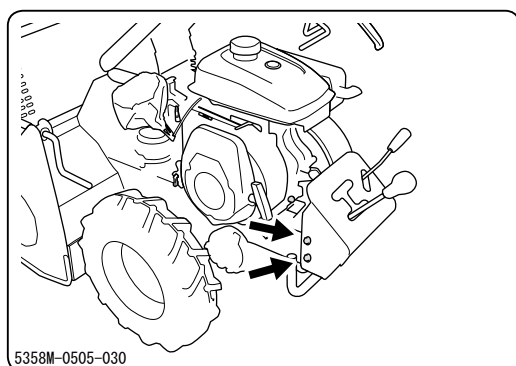


- ① ボルト（2本）を取り外しベルトカバーを取り外します。

アドバイス

- ・ベルトカバーは前後がつながっていますので、一緒に取り外します。

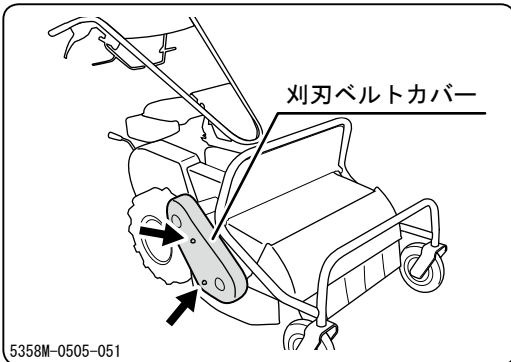
● チェンジガイドの取り外しかた



- ① ボルト（4本）を取り外しチェンジガイドを取り外します。

保守・お手入れ 5

● 刈刃ベルトカバーの取り外しかた



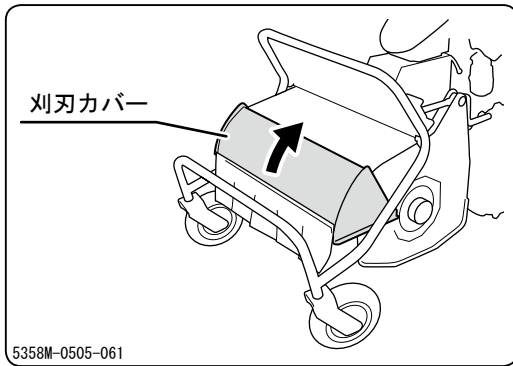
- 1 ボルト（2本）を取り外し刈刃ベルトカバーを取り外します。

● 刈刃カバーの開けかた

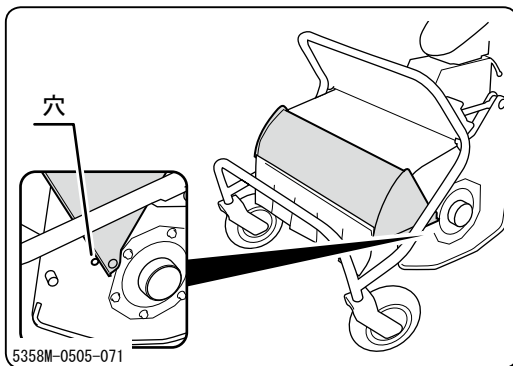
⚠ 警告

- ・ 刈刃カバーを開ける時は必ずエンジンを切って下さい。刈刃回転中にカバーを開けるとケガをする恐れがあります
- ・ 刈刃カバーは整備時のみに限り開いてください。刈刃カバーを開けたままでは絶対に作業をしないでください。飛散物により作業員や通行人が負傷する恐れがあります。また、建造物等に損害を与える恐れがあります。

5 保守・お手入れ



1 刈刃カバーを持ち上げて開きます。



2 刈刃交換時などで、刈刃カバーを開けた状態で保持する必要がある時は、刈刃カバー左側の穴にドライバーなどを差し込んで固定します。

保守・
お手入れ

エンジン

⚠ 警告

- ・点検および作業時は必ずメインスイッチを[停止]にしてエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。
- ・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。

保守・お手入れ 5

● エンジンオイルの点検・補給・交換

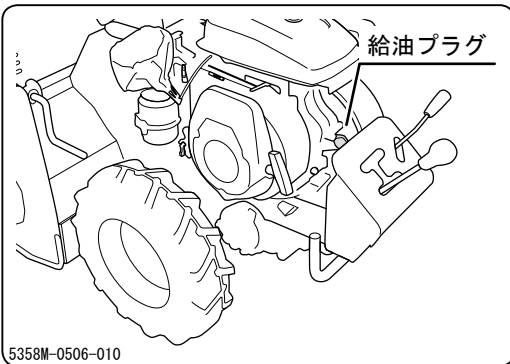
▲ 注意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

👉 アドバイス

- ・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
- ・指定オイル・オイル量：📖40ページ



点検

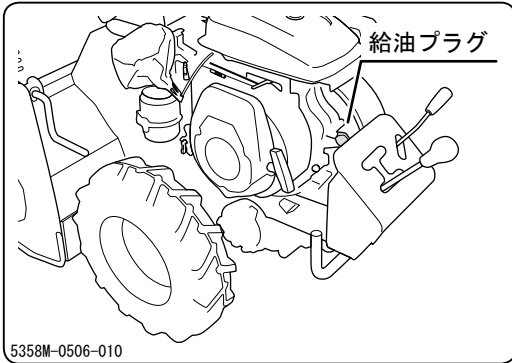
- 1 車体を水平な場所に駐車します。
- 2 刈高さ調節ハンドルを回し、エンジンが水平になるように調節します。
- 3 給油プラグを取り外します。
- 4 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従ってオイルの点検を行います。

保守・
お手入れ

5 保守・お手入れ



給油プラグを取り付けます。



補給



給油プラグを取り外します。



付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従ってオイルの補給を行います。



オイル量を点検します。



給油プラグを取り付けます。

交換



オイルを抜き取る適当な容器を用意します。



ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。

アドバイス

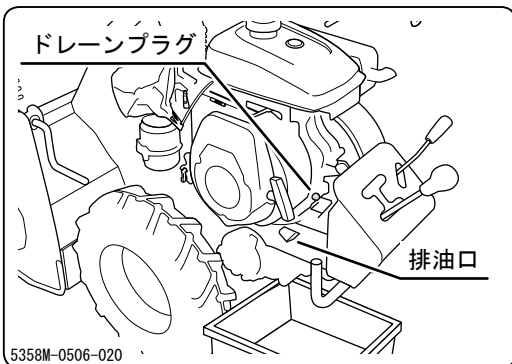
- ・オイルはフレーム内部の樋を通じてフレーム左側の排油口より排出されます。



ドレーンプラグを取り付けます。



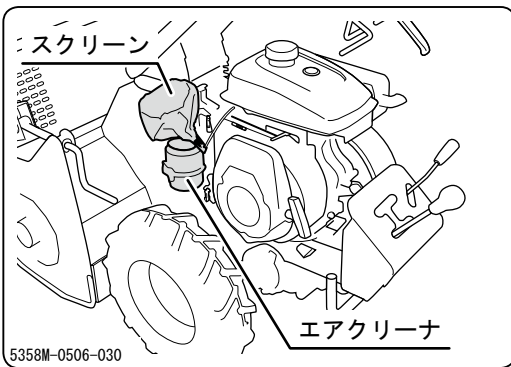
オイルを補給します。



● エアクリーナの清掃・交換

▲ 注意

- ・エアクリーナエレメントの清掃は毎日行ってください。また、エアクリーナオイルの量と汚れを毎日確認してください。エレメントやオイルの汚れがひどくなると、あるいはオイルの量が不適切であると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。



- 1 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従ってエアクリーナエレメントの清掃・交換を行います。

👉 アドバイス

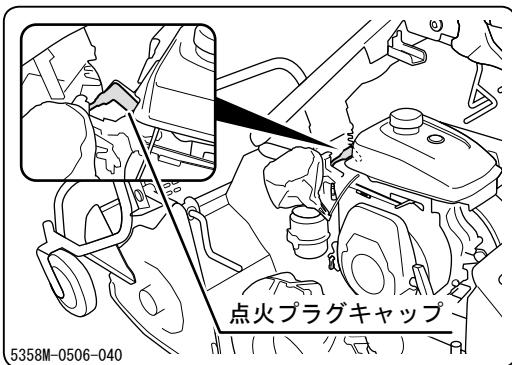
- ・本機はオイルバス式エアクリーナを装備しています。エアクリーナの点検時はオイルの量と汚れも確認してください。
- ・本機はエアクリーナの吸入口にスクリーンを装備しています。エアクリーナの点検時はスクリーンの目詰りや破れなども確認してください。

5 保守・お手入れ

● 点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注意

- ・ 点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。



- 1 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って点火プラグの点検・清掃・交換を行います。

走行装置

⚠ 警告

- ・ 点検および作業時は必ずメインスイッチを[停止]にし、エンジンを停止してください。
-
- ・ エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

保守・お手入れ 5

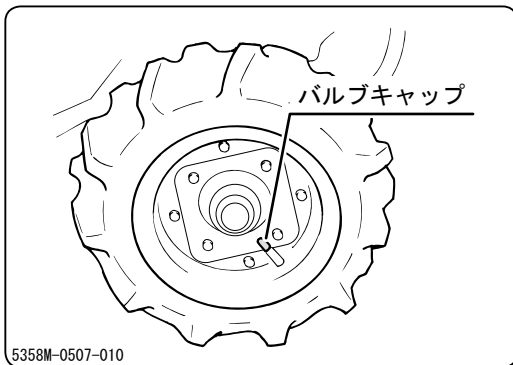
● タイヤ空気圧の点検・調整

⚠ 注意

・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常摩耗や損傷のおそれがあります。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

	タイヤサイズ	空気圧 KPa(kgf/cm ²)
後輪	4.00-7 (4PR)	240(2.4)



後輪

- 1 車両を水平な場所に駐車します。
- 2 後輪のバルブキャップを取り外します。
- 3 タイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。
- 4 バルブキャップを取り付けます。

保守・
お手入れ

👉 アドバイス

・ゲージ輪はソリッドタイヤです。空気圧の点検・調整の必要はありません。

5 保守・お手入れ

ゲージ輪

- 1 ゲージ輪に摩耗や損傷がないか目視で確認し、摩耗や損傷がある場合は交換します。

● トランスミッションオイルの交換

アドバイス

- ・指定オイル・オイル量：☞40ページ

- 1 車両を水平な場所に駐車し、刈高さ調節ハンドルを回して車体が水平になるように調節します。

- 2 チェンジガイドを取り外します。

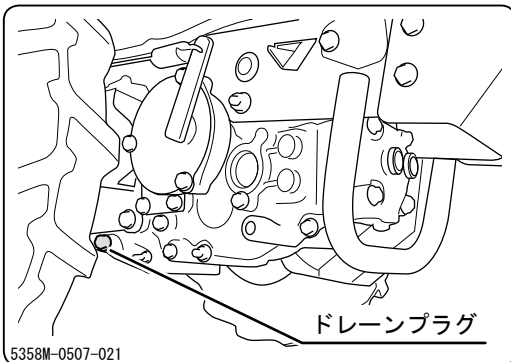
アドバイス

- ・整備上はチェンジガイドを完全に取り外す必要はありません。その場合は、外したチェンジガイドの縁で怪我をしたり、車体に傷をつけたりしないようにウェスなどで包んで保護してください。

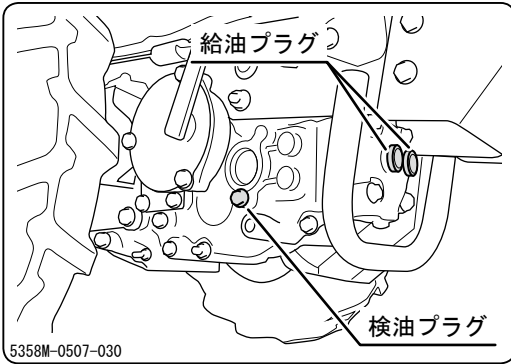
- 3 オイルを抜き取る適当な容器を用意します。

- 4 ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。

- 5 ドレーンプラグを取り付けます。



保守・お手入れ 5



- 6 給油プラグと検油プラグを取り外します。
- 7 じょうご等を使用し、給油口より指定のオイルを検油口（検油プラグを外した穴）の位置まで給油します。
- 8 給油プラグと検油プラグを取り付け、チェンジガイドを取り付けます。

● Vベルトの点検・調整

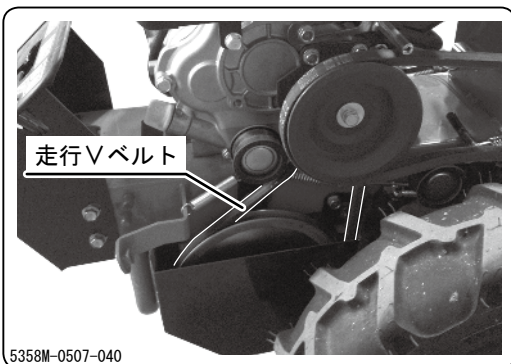
⚠ 注意

- ・ベルトが滑る場合にはベルトの張りを調整してください。ベルトの寿命が短くなるおそれがあります。

保守・
お手入れ

点検

- 1 ベルトカバーを取り外します。
- 2 走行Vベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
- 3 ベルトカバーを取り付けます。

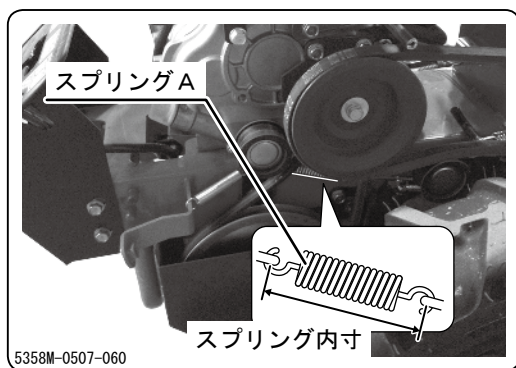
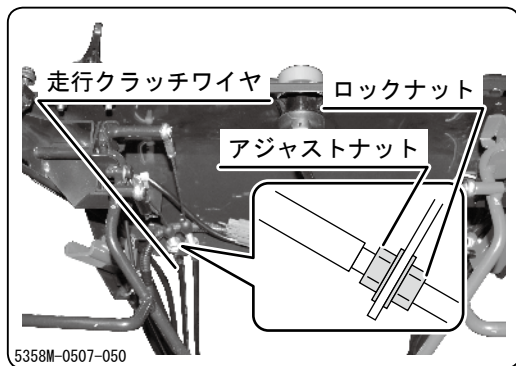


👉 アドバイス

- ・ベルトサイズ：SA34

5 保守・お手入れ

調整



1 走行クラッチレバーを[切]にします。

2 ロックナットを緩めます。

アドバイス

- ・走行クラッチワイヤの調整はハンドル下側で行います。

3 走行クラッチレバーを[走行]にします。

4 スプリングAの伸びが7.5~8.5mmの範囲になるように、アジャストナットで調整します。

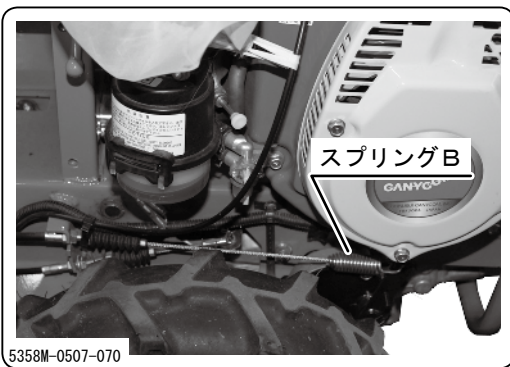
5 ロックナットを締め付けます。

保守・お手入れ 5

● ブレーキの点検・調整

⚠ 警告

・ブレーキの効きが少しでも甘くなったら、すぐに調整を行ってください。

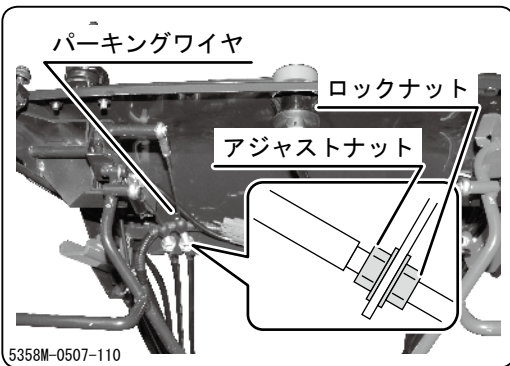


点検

- 1 走行クラッチレバーを[切]の位置にします。
- 2 スプリングBの伸びが1.5~2.5mmであるか点検します。適正でない場合には調整します。

調整

- 1 走行クラッチレバーを[切]の位置にします。
- 2 ロックナットを緩めます。
👉 アドバイス
・ブレーキワイヤの調整はハンドル下側で行います。
- 3 スプリングBの伸びが約1.5~2.5mmになるようにアジャストナットで調整します。
- 2 ロックナットを締めます。



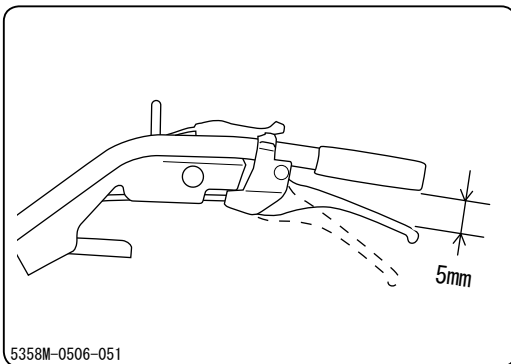
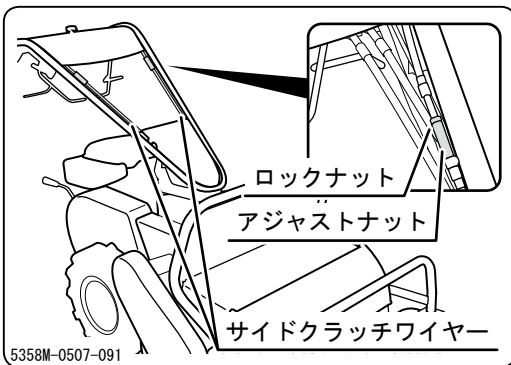
保守・
お手入れ

5 保守・お手入れ

● サイドクラッチレバーの点検・調整

⚠ 警告

・ サイドクラッチレバーの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。



- 1 車両を水平な場所に駐車します。
- 2 ロックナットを緩めます。
アドバイス
・ イラストでは左側調整部を示しています。右側もベルトカバー内の同じ位置にあります。
- 3 サイドクラッチレバーを握りしめた時に、クラッチレバー先端とグリップの隙間が5mmになるようにアジャストナットで調整します。
- 4 ロックナットを締めます。

刈取装置

⚠ 警告

- ・作業時は、必ずメインスイッチを[停止]にし、エンジンを停止してください。また、走行クラッチを[切]にして駐車ブレーキを掛けてください。
- ・エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。
- ・刈り取り部を持ち上げて作業を行う時は、固く平坦な路面で、車体を確実に固定して作業を行ってください。

● 刈刃の点検・交換

⚠ 警告

- ・刈刃を新品に交換する時は、必ず刈刃ボルト・ナットも新品に交換してください。また、刈刃ボルト・ナットは必ず専用品を使用してください。専用品以外を使用すると脱落や破損のおそれがあります。
- ・刈刃が折損や変形した場合は、すぐに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

5 保守・お手入れ

⚠ 警告

- ・ 刃刃や刃刃ボルト・ナットが摩耗した場合は、すぐに新品と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。
- ・ 刃刃を交換する場合は全数交換をしてください。やむを得ず一部を交換する場合は左右対称になるように交換してください。回転バランスがくずれ異常振動を発生し、故障の原因となります。
- ・ 刃刃を交換、または反転したときは、刃刃ボルトが確実に締められていることを確認してください。刃刃が脱落し、重大事故になる可能性があります。
- ・ 刃刃は鋭くとがっており、取扱い時に手などを怪我する可能性があります。刃刃を取扱う時は必ず厚い手袋を着用し、慎重に取り扱ってください。

⚠ 注意

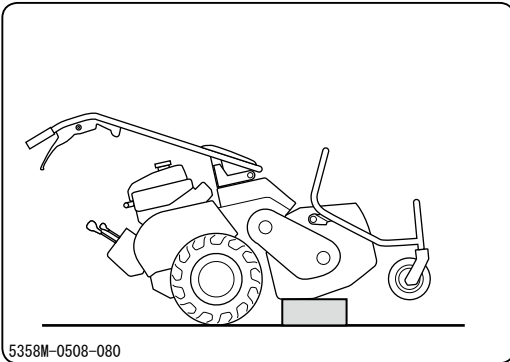
- ・ 刃刃の取扱時は必ず厚い手袋を着用し、慎重に取り扱ってください。
- ・ 毎回、作業終了後に刃刃の清掃を行なってください。

保守・お手入れ 5

作業の前に

アドバイス

- ・ 刈刃の点検・交換を行う時は、刈高さを最高位置にすると作業が行いやすくなります。
- ・ 刈り取り部を持ち上げて作業を行う場合は、確実にブレーキをかけたうえで、刈刃カバー下にブロックなどをいれて車体を確実に固定して下さい。



点検

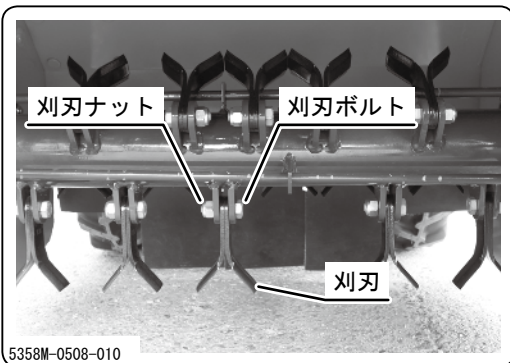
- 1 刈刃カバーを開け、ドライバーなどで確実に固定します。(☞46ページ)

- 2 刈刃および刈刃ボルトに摩耗や変形、破損がある場合は新品と交換します。

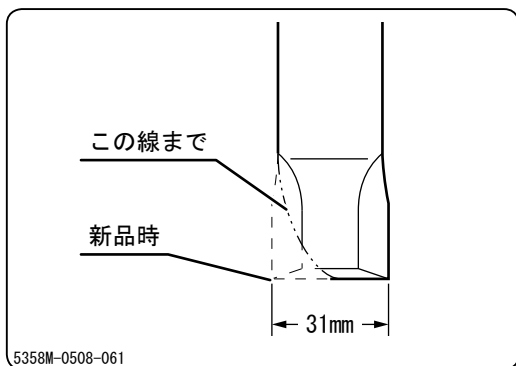
アドバイス

- ・ 刈刃は両面刃を使用していますので、片面が摩耗した場合は反対向きに取り付けます。

- 3 刈刃カバーを閉めます。

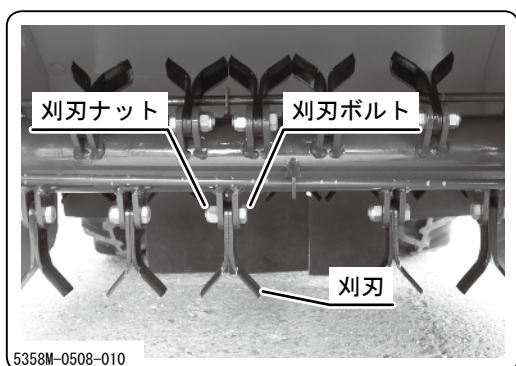


5 保守・お手入れ



アドバイス

- ・ 刈刃は両面刃を使用しています。片面が左図程度（刈刃幅の1/2くらい）摩耗したら反転させます。両面とも摩耗した時は新品に交換します。

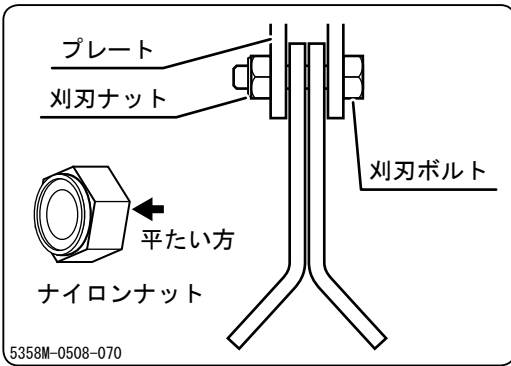


交換

- 1 刈刃ボルトを外し、刈刃を取り外します。

- 3 片面のみ摩耗している時は刈刃を反転します。両面とも摩耗している時は、新品の刈刃に交換します。刈刃ボルトで刈刃を所定の位置に装着します。

保守・お手入れ 5



- 4** 刈刃ナットの平たい方を刈刃に向けて取り付け、ナットを締め付けます。

アドバイス

- ・刈刃ナットはナイロンナットです。ナットがプレートに接した後、ボルトが回らず刈刃が自由に回転する程度にナットを締めます。

● 刈刃クラッチの調整

⚠ 危険

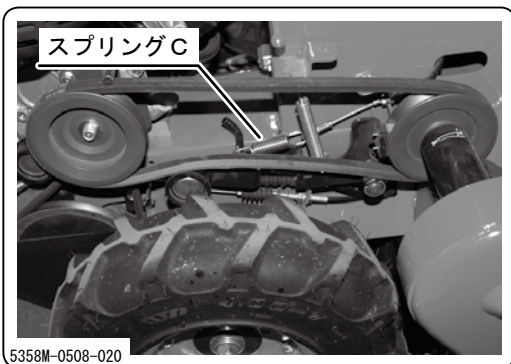
- ・刈刃の回転中に刈刃カバーの前に近寄らないでください。

⚠ 警告

- ・点検時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

保守・
お手入れ

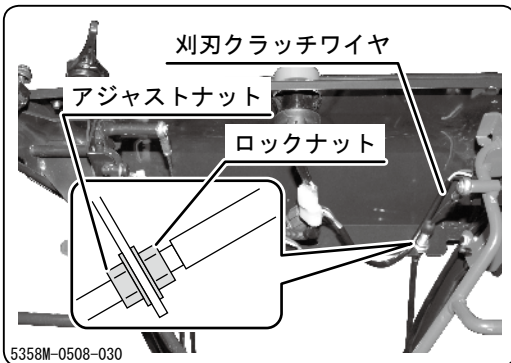
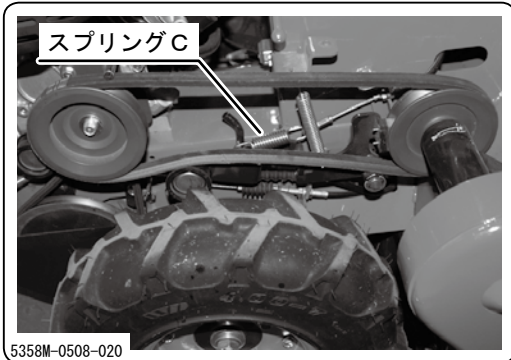
点検



- 1** ベルトカバーを取り外します。
- 2** 刈刃クラッチレバーを[入]にします。
- 3** スプリングCの伸びが8~9mmの範囲にあるか点検します。適正でない場合は調整します。

5 保守・お手入れ

- ④ 刈刃クラッチレバーを[切]にします。
- ⑤ ベルトカバーを取り付けます。



保守・
お手入れ

調整

- ① ベルトカバーを取り外します。
- ② 刈刃クラッチレバーを[入]にします。
- ③ ロックナットを緩めます。
- ④ スプリングCの伸びが8~9mmの範囲になるようにアジャストナットで調整します。

アドバイス

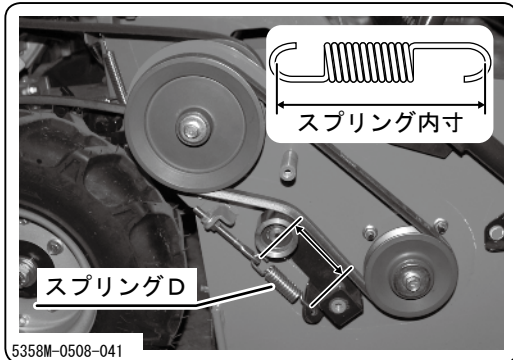
- ・刈刃クラッチワイヤの調整はハンドル下側で行います。

- ⑤ ロックナットを締めます。
- ⑥ 刈刃クラッチレバーを[切]にし、ベルトカバーを取り付けます。

アドバイス

- ・ベルトサイズ：LB43

● 刈刃ベルトの調整



点検

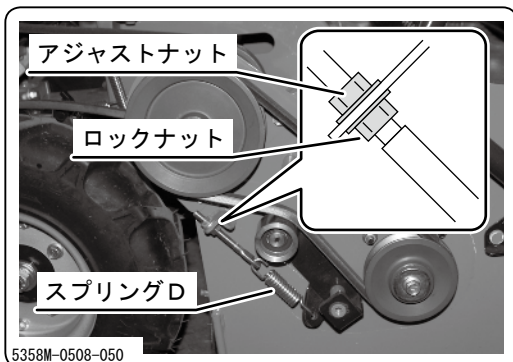
- 1 刈刃ベルトカバーを取り外します。
- 2 ↓
スプリングDの内寸が86.5～87.5mmの範囲にあるか点検します。適正でない場合は調整します。
- 3 ↓
刈刃ベルトカバーを取り付けます。

アドバイス

- ベルトサイズ：LB36

調整

- 1 刈刃ベルトカバーを取り外します。
- 2 ↓
ロックナットを緩めます。
- 3 ↓
スプリングDの内寸が86.5～87.5mmの範囲になるようにアジャストナットで調整します。
- 4 ↓
ロックナットを締めます。
- 5 ↓
刈刃ベルトカバーを取り付けます。



5 保守・お手入れ

使用後のお手入れ

●通常使用後のお手入れ

⚠ 警告

- ・使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。また、エンジンの空気吸入口に草などが堆積するとオーバーヒートや熱による車体の異常が発生する可能性があります。

⚠ 注意

- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

清掃

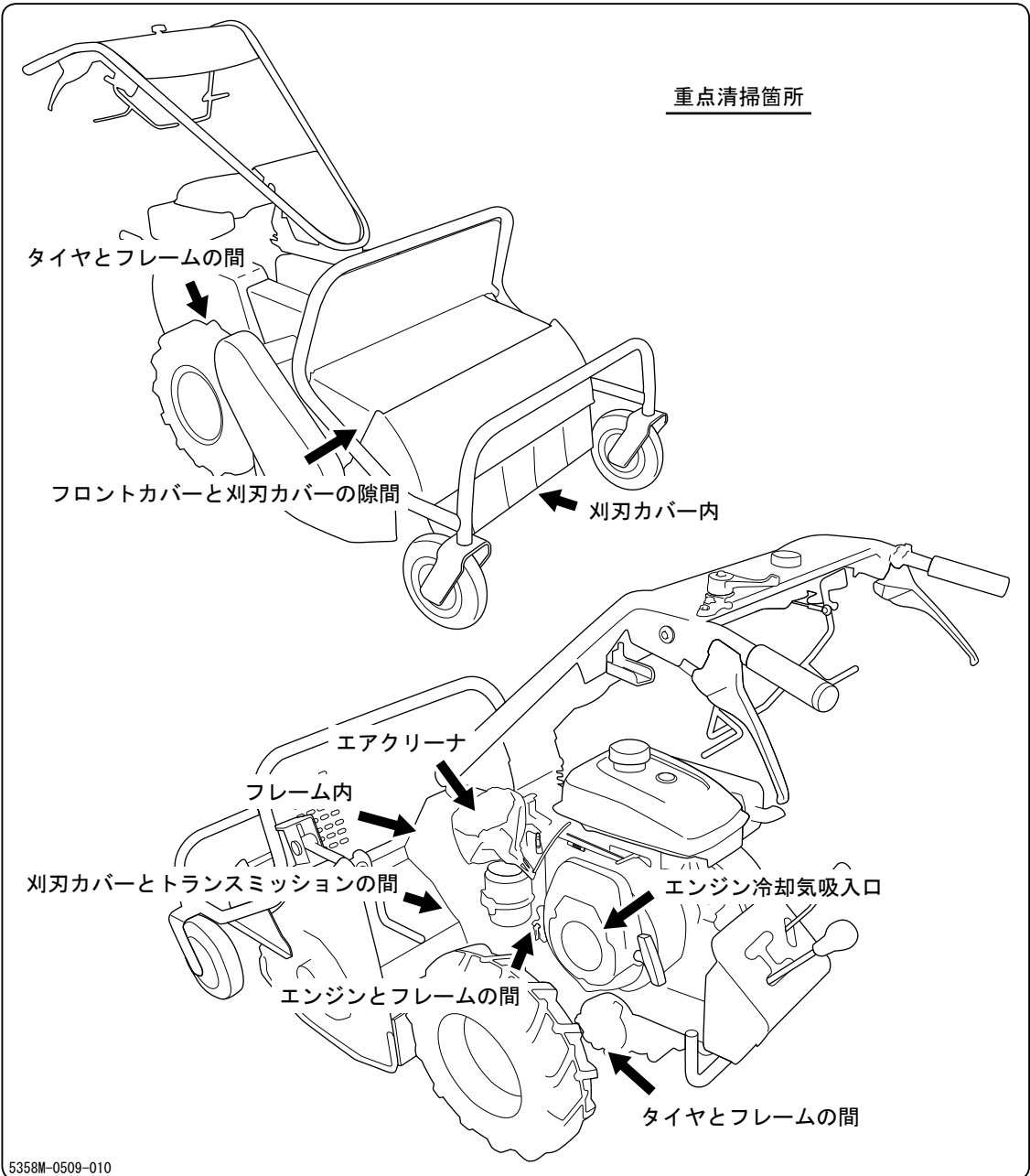
- 1 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。

👉 アドバイス

- ・次ページの重点清掃箇所を参考に清掃して下さい。

- 2 刈取装置を清掃します。刈刃や刈刃ボルトに付着した泥などを取り除きます。

保守・お手入れ 5



保守・
お手入れ

保管

- 1 屋外に駐車する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

5 保守・お手入れ

● 寒冷期使用後のお手入れ

⚠ 注意

- ・ エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・ 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・ 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

- ① 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
- ② コンクリートか硬い乾燥した地面または角材の上に駐車します。
- ③ 屋外に駐車する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

保守・
お手入れ

長期保管のしかた

⚠ 警告

- ・ 火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。
- ・ 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

保守・お手入れ 5

⚠ 警告

- ・燃料の取扱時は、配線に燃料がかからないようにしてください。発火や配線が劣化するおそれがあります。

⚠ 注意

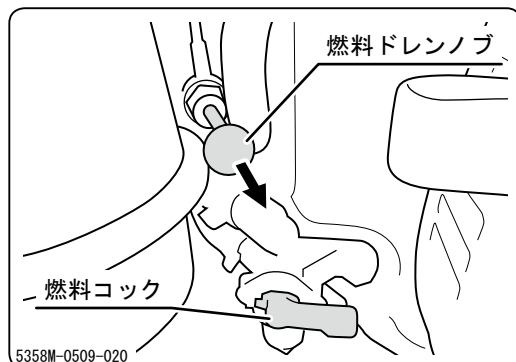
- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

- 1 車両を駐車します。
- 2 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除き、「通常使用後のお手入れ」（64ページ）の内容に従って清掃します。
- 3 「定期点検表」（36ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば修理します。
- 4 鋼板部分を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
- 5 エンジンオイルを交換します。

5 保守・お手入れ

6 エアクリーナエレメントを清掃し、エアフィルタオイルを交換します。

7 燃料ドレンノブを引いてキャブレタおよび燃料タンク内の燃料を抜きます。また、燃料コックから燃料タンク内の燃料を抜きます。



アドバイス

- ・キャブレタよりの燃料の抜き取りについては、エンジン取扱説明書を参照してください。燃料抜き取り時は、周囲の配線に燃料がかからないように注意して下さい。引火のおそれがあります。
- ・燃料を抜き取る際は、適当な容器で燃料を受けてください。

8 走行クラッチが[切]であることを確認します。

9 エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

- ・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合発生時の処置 6

●不具合診断表

- ・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店へ連絡してください。
- ・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからない、またはかかりにくい	メインスイッチが「切」になっている	→メインスイッチを「運転」にする	23ページ
		走行クラッチレバーまたは刈刃クラッチレバーが「入」になっている	→「切」にする	21ページ
		燃料切れ	→補給する	18ページ
		燃料コックが「閉」になっている	→燃料コックを「開」にする	22ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		エンジンオイルの不足、粘度不適合、または品質不良	→補給または交換する	47ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	50ページ
		その他（上記以外）	→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	21ページ

不具合発生時の処置

⑥ 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	18ページ
		チョークレバーが「閉」になっている	→チョークレバーを戻す	23ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	18ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		過負荷	→負荷を減らす	
		駐車ブレーキの調整不良	→調整する（操行レバーの点検・調整）	55ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください		
オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	47ページ	
	冷却フィンが目詰まり	→清掃する		

不具合発生時の処置

不具合発生時の処置 6

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		チョークレバーが完全に「開」になっていない（「半チョーク」）	→チョークレバーを完全に戻す	23ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		チョークレバーが「閉」になっている	→チョークレバーを戻す	23ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	47ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	47ページ
その他（上記以外）		→販売店へお問い合わせください		
走行関連	旋回が円滑に行えない	サイドクラッチレバーの調整不良	→調整する	56ページ
		刈高さが低すぎる	→刈高さを高くする	33ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	直進性が悪い	サイドクラッチレバーの調整不良	→調整する	56ページ
		ゲージ輪に草や土などが詰まっている	→清掃する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

不具合発生時の処置

⑥ 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
刈取装置関連	刈刃が回転しない	刈刃クラッチワイヤの調整不良	→調整する	
		刈刃駆動装置の不良	→販売店へお問い合わせください	
	刈刃が停止しない	刈刃ブレーキの消耗	→販売店へお問い合わせください	
	刈刃を回転すると異常振動が発生する	刈刃の欠損または脱落	→刈刃を交換する	57ページ
		異物を巻き込んでいる	→異物を取り除く	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	刈った草がうまく放出されない	草が湿っている	→草が乾燥してから作業する	
		草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
作業速度が速い		→作業速度を遅くする		

不具合発生時の処置 6

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
刈取装置関連	刈り残しがある	草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃の消耗、破損	→交換する	
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	
	土削りがある	刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		地形に起伏がある	→刈高さを高くする	
	刈取作業負荷が大きい	エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃軸に草が巻き付いている	→清掃する	

7 本製品の移送

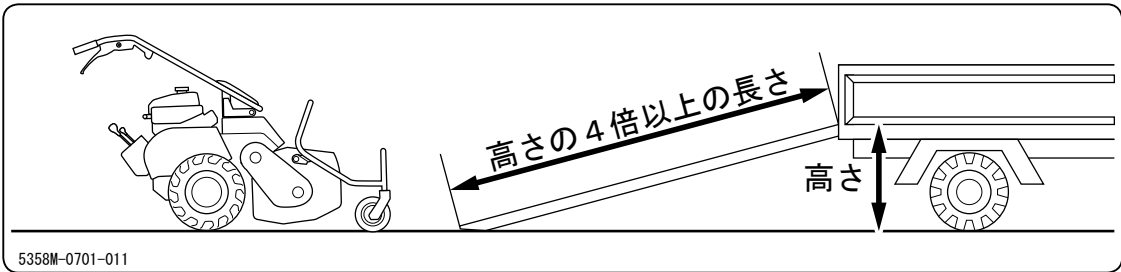
本製品の移送

●トラックへの積み降ろしのしかた

⚠ 警告

- トラックは平坦な場所に停め、必ずパーキングブレーキ（駐車ブレーキ）をかけ輪止めをしてください。
- 作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- 前進でゆっくりと積み込んでください。
- アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- 輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。

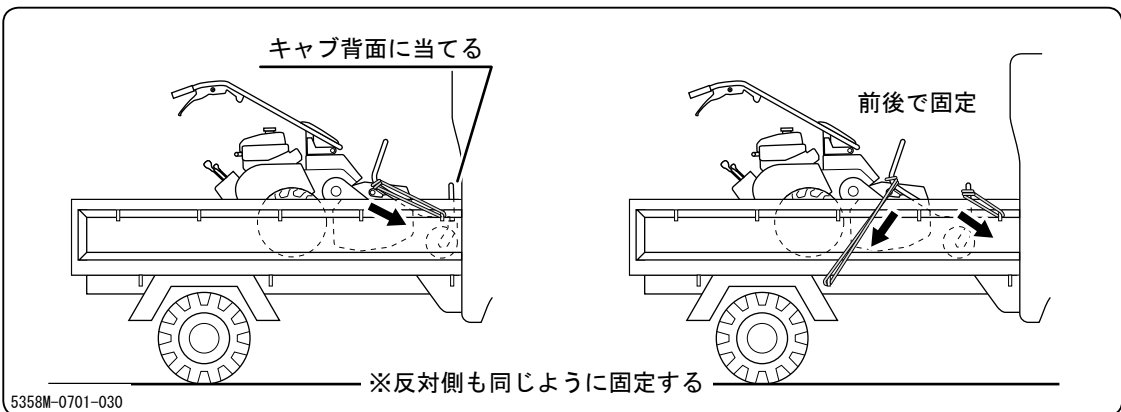
本製品の移送 7



- 1 トラックを平坦な場所に停め、パーキングブレーキをかけて輪止めをします。
- 2 アユミ板のフックを荷台との段差なく、また、ずれないように確実にかけます。
- 3 刈高調節ハンドルで刈高さを最も高い位置にし、前進でゆっくりと積み込みます。
- 4 「駐車のかた」（28ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ等で車両を荷台に確実に固定します。

アドバイス

- 本機をトラックの荷台などに固定する時は、下図を参考にゲージ輪フレームをロープなどで動かないように固定して下さい。
- 吊り下げフック（77ページ）やハンドルにロープを掛けしないで下さい。ロープが緩んだり外れて危険です。



7 本製品の移送

● 吊り上げ要領

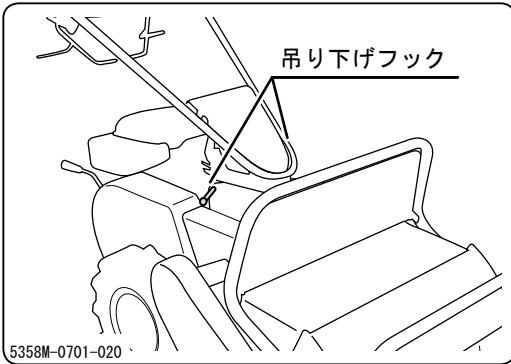
⚠ 危険

- ・車両を吊り上げたときは、吊り上げた車両の下には絶対に入らないでください。車両が落下して死傷するおそれがあります。

⚠ 警告

- ・クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。
- ・吊り上げに使用するワイヤーロープ（またはスリング、チェーン等）は、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。
- ・車両を吊り上げるときは、必ず吊り下げフックにワイヤーロープ、スリング、チェーンなどを掛けて吊り上げて下さい。吊り下げフック以外のところにかけてと車両が転落するおそれがあります。
- ・車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。
- ・必ずエンジンを停止してから車両を吊り上げて下さい。また、車両を吊り上げた状態でエンジンを始動しないでください。

本製品の移送 7



- 1 吊り下げフックにワイヤーロープを掛け、車両を吊り下げます。

アドバイス

- 本機を吊り下げる時はハンドルやゲージ輪フレームにロープを掛けしないで下さい。ハンドルやゲージ輪フレームが動いて車体のバランスがくずれ、転落する恐れがあり危険です。